

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第226集

長土呂遺跡群

上聖端遺跡Ⅲ

長野県佐久市長土呂上聖端遺跡Ⅲ発掘調査報告書

2014

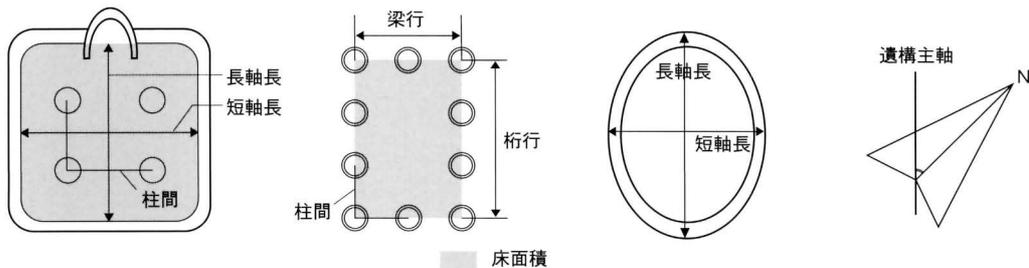
佐久市教育委員会

例 言

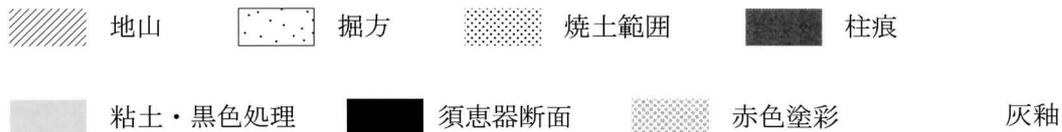
- 1 本書はエフビー介護サービス株式会社による高齢者複合施設建設に伴う長土呂遺跡群上聖端遺跡Ⅲの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 エフビー介護サービス株式会社
- 3 調査主体者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地 長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅲ (NNKⅢ)
佐久市長土呂字上大林
- 5 調査担当者 久保 浩一郎
- 6 本書の編集・執筆は久保が行った。

凡 例

- 1 遺構の略称は以下のとおりである。
H- 竪穴住居址 F- 掘立柱建物址 D- 土坑 P- ピット
- 2 遺構断面図の標高は遺構ごとに統一し、スケールバー上に値を示した。
- 3 遺構の計測値は以下の値である。



- 4 スクリーントーンでの表示は以下のとおりである。



- 5 遺物の実測図番号と写真番号は対応し、特に記載のないものは縮尺1/4で掲載した。
- 6 本書で示した方位は真北であり、座標値は世界測地系に準拠している。
- 7 遺物観察表における()は推定値を、〈 〉は残存値を示す。

目次

第I章 発掘調査の経過	1
第1節 発掘調査の経緯	1
第2節 調査組織	3
第3節 調査日誌	3
第4節 遺構・遺物の概要	3
第II章 遺跡の位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3節 基本層序	5
第III章 遺構と遺物	7
第1節 竪穴住居址	7
第2節 掘立柱建物址	15
第3節 土坑	21
第4節 その他の遺構・遺物	22
第IV章 総括	28



第 I 章 発掘調査の経過

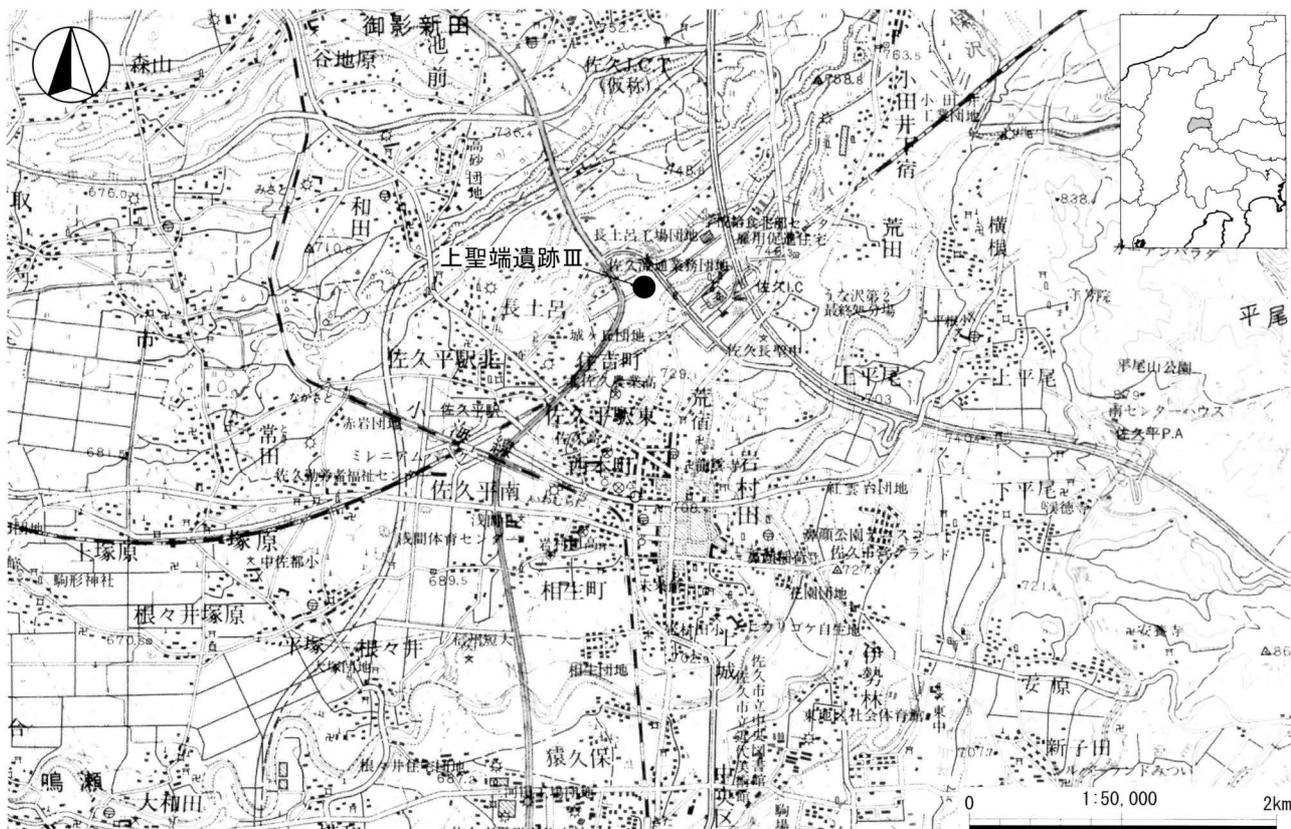
第 1 節 発掘調査の経緯

上聖端遺跡は、佐久市長土呂に所在する縄文時代から中世までの複合遺跡である（第 1 図）。浅間南麓の田切り台地上に位置し、標高730m内外を測る。過去2回の発掘調査が実施され、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居址等が確認されている。

今回、遺跡内でエフビー介護サービス株式会社による高齢者複合施設建設工事が計画されたため、対象地内の遺構確認を目的とした試掘調査を平成25年4月15日～16日に実施した。対象地1,477㎡に対して320㎡をトレンチ調査した結果、対象地全域で奈良・平安時代の竪穴住居址や掘立柱建物址等が検出された（第 2 図）。保護協議の結果、遺跡の保存が不可能な部分について記録保存を目的とする発掘調査を行うこととなった。

発掘調査は、平成25年5月13日～6月6日に実施した。排土置き場を確保するため、調査区を東西二つに分けて半分ずつ掘削・記録作業を行った。まず西側半分の表土を重機により除去し、排土を調査区東側に仮置きした。次に国土地理院の平面直角座標系原点第Ⅷ系を基点とする4mグリッドを設置した（第 3 図）。グリッドは調査区北端のX=31944、Y=-2152を起点とし東西方向にアルファベット名を、南北方向にローマ数字名を付け、それらを合わせてグリッド名とした。

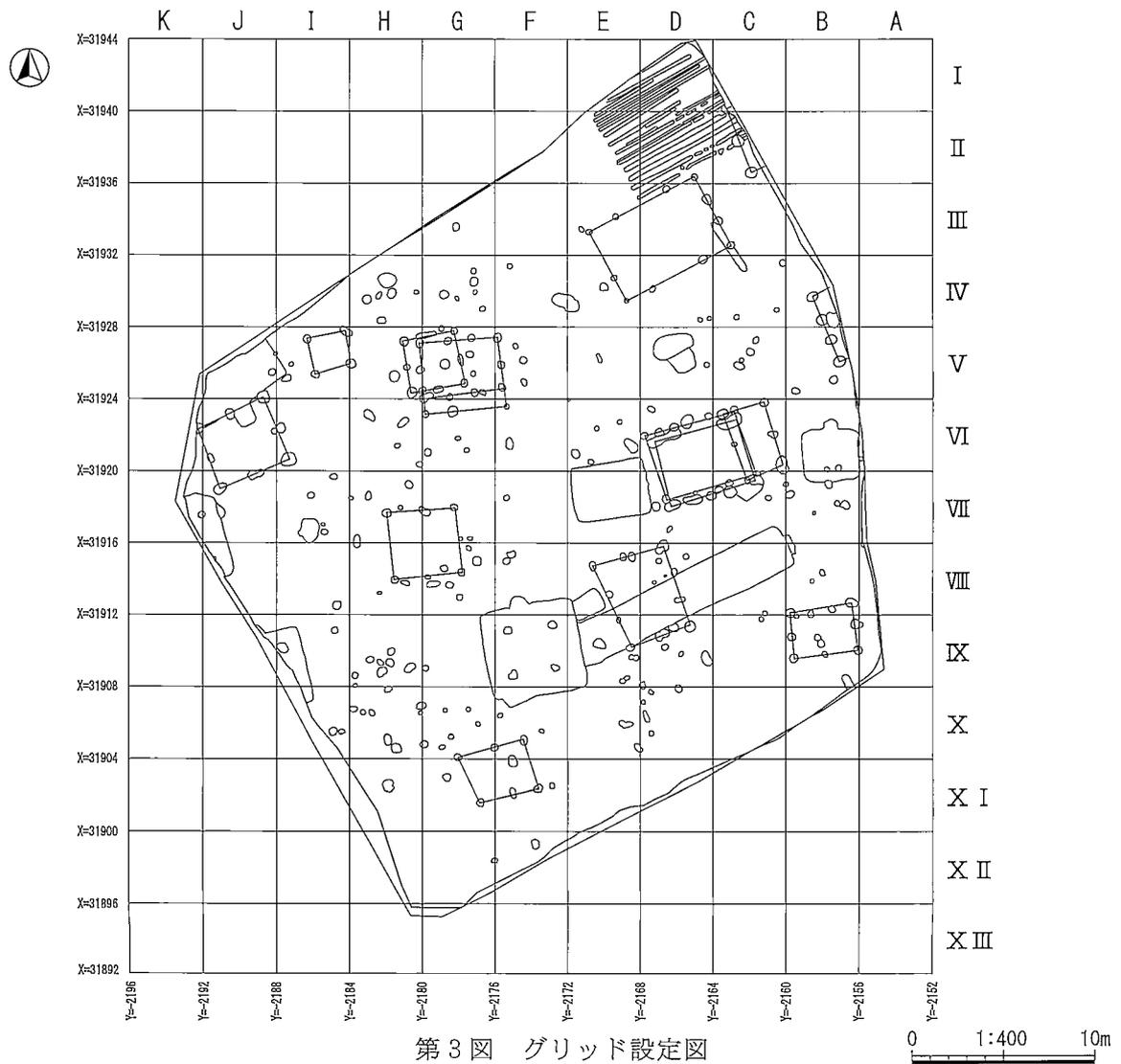
グリッド杭設置後、人力により遺構確認面の精査・遺構検出を行い、各遺構の掘削・記録作業を行った。住居址は4分割して対角線上の2区画を床面まで掘削、土層を記録、残り2区画の掘削、床面精査、柱穴・カマド掘削、土層を記録、完掘、平面図作成、掘方掘削、土層を記録、掘方完掘、平面図作成という手順で調査した。遺物は区画ごとに取り上げ、床面上の遺物は平面位置・標高を記録して取り上げた。



第 1 図 上聖端遺跡Ⅲ位置図



第2図 試掘トレンチ・調査区設定図



第3図 グリッド設定図

掘立柱建物址は柱穴列を通る直線で半裁、土坑・ピットは長軸方向に半裁し、土層の記録、完掘、平面図作成の手順で調査した。平面図はグリッド杭を用いた簡易遺方測量及び平板測量により作成した。写真はデジタル一眼レフカメラによるRAW及びJPEGデータと、35mm一眼レフカメラによるカラーバーサルフィルムを用いて記録した。

調査区西側の記録作業終了後、仮設事務所等を東側に移動し、西側同様の手順で調査区内に4mグリッドを設置し、遺構検出・掘削・記録作業を行った。

第2節 調査組織

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	土屋 盛夫（～平成26年 5月） 糊澤 晴樹（平成26年 5月～）
事務局	社会教育部長	矢野 光宏（平成25年度）	山浦 俊彦（平成26年度）
	文化財課長	三石 宗一	
	文化財調査係長	比田井 清美	
	文化財調査係	須藤 隆司（平成25年度）	小林 眞寿 富沢 一明 上原 学 神津 一明 久保 浩一郎
	嘱託職員	林 幸彦（平成25年度）	
	調査主任	森泉 かよ子	
	調査担当者	久保 浩一郎	
	調査員	赤羽根 篤 甘利 隆雄 飯森 成英 加藤 ひろ美 木内 修一 神津 千春 小林 敏雄 坂井 一夫 林 まゆみ 堀籠 保子 柳澤 孝子 山田 叔正 油井 満芳	

第3節 調査日誌

平成25年 5月13日	仮設機材等搬入、バックホウにより西側半分の表土掘削を開始する。
5月16日～	グリッド杭打設。遺構掘削・記録作業を順次行う。
5月22日	調査区西側の全景写真撮影
5月24日	調査区平面図を作成、西側調査終了。
5月27日	仮設事務所等西側に移動、東側表土掘削開始。
5月29日	グリッド杭打設。掘削・記録作業を順次行う。
6月4日	東側全景写真撮影。
6月5日	調査区平面図作成。
6月6日	機材撤収。現場での作業終了。
6月7日～	室内作業開始。遺物洗浄・注記・接合・実測・図面整理・報告書執筆作業を順次行う。
平成26年 9月	報告書を刊行し、すべての作業を終了する。

第4節 遺構・遺物の概要

遺構	竪穴住居址 6軒（古墳時代1軒、奈良時代5軒）、掘立柱建物址 14軒、 土坑 3基、ピット 164基、畝状遺構 1箇所、流路跡 1条
遺物	土師器（壺・甕・坏・高坏・椀・鉢・羽釜）、須恵器（壺・甕・坏・坏蓋・有台坏）、 石器（打製石斧・石鏃・磨石・敲石・カマド支脚）、鉄製品（鉄鏃・刀子・鋸）

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

佐久市は長野県中央東端、群馬県に接し四方を山地・台地に囲まれた標高700m程度の盆地内に位置する。佐久平と呼ばれるこの盆地は、東に佐久山地、北に浅間山、南に蓼科山・八ヶ岳を望み、その中央には千曲川が北流する。千曲川左岸の佐久平南側は蓼科・八ヶ岳から緩やかに伸びる山裾と、そこを流れる小河川により形成された小規模な扇状地及び千曲川の沖積低地が広がっている。一方千曲川右岸の北側は、約23,000年前と推定される塚原泥流や約13,000～10,000年前の軽石流などの浅間山火山噴出物により形成された台地である。佐久市北部にはこの軽石流が河川の浸食をうけて形成された浸食谷、いわゆる「田切り地形」が特徴的に発達している。

今回発掘調査を実施した上聖端遺跡は佐久市北端部の長土呂地籍に所在している。周辺は、浅間第一軽石流が小河川の浸食を受けて形成された田切り地形が発達しており、北東から南西方向に延びる狭長な帯状台地上に遺跡が密集している（第4図）。

第2節 歴史的環境

軽石流に厚く覆われた本遺跡周辺では、旧石器時代の遺跡は確認できないため、ここでは縄文時代以降に周辺の田切り台地がどのように利用されてきたのかを概観したい

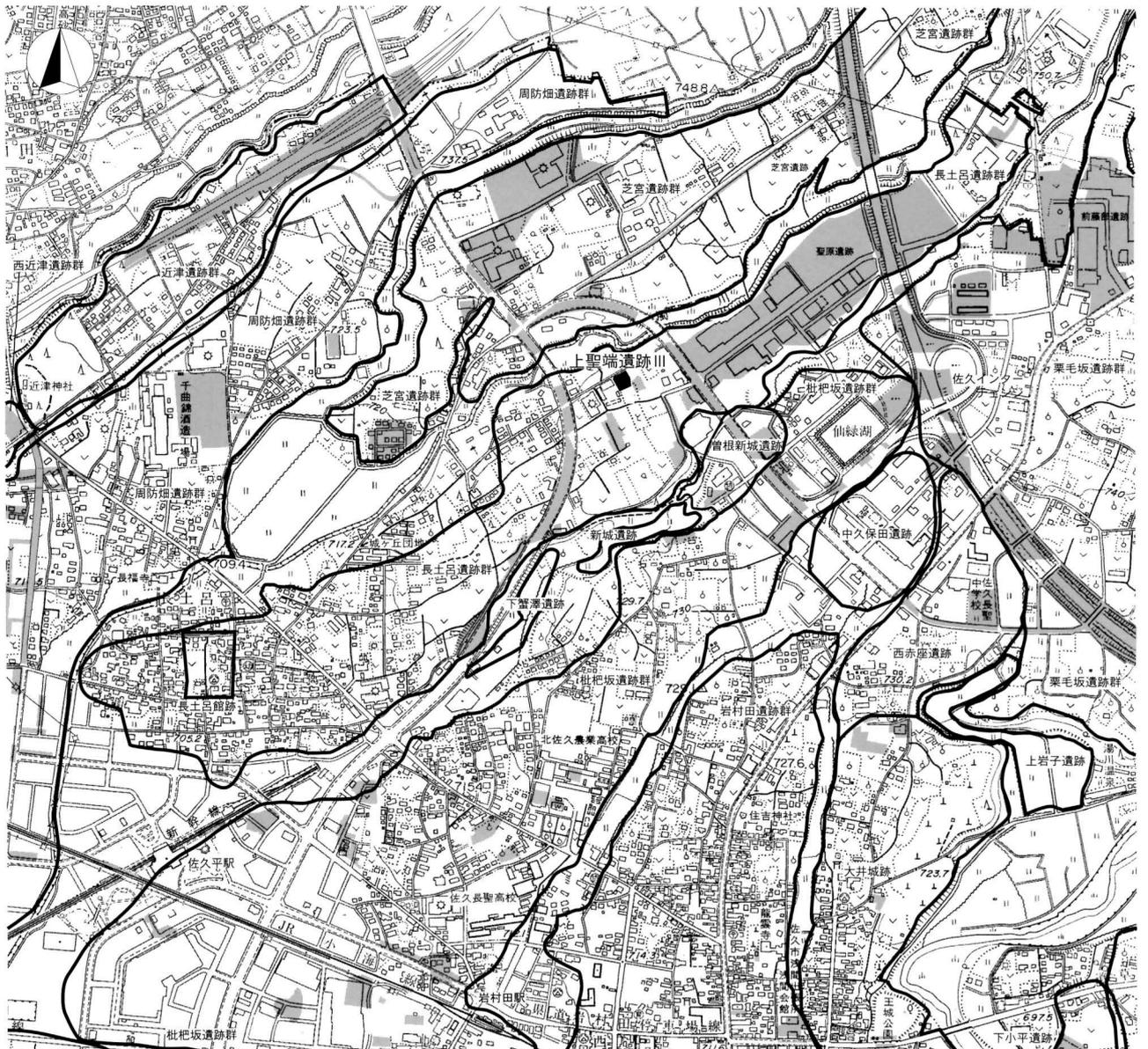
縄文時代の集落は本遺跡より北側の御代田町や小諸市の浅間山麓に立地しており、本遺跡周辺では落し穴などの遺構が散見される程度である。当時は狩猟採集の場として利用されていたと考えられる。

弥生時代では、本遺跡西側の上大林遺跡や下聖端遺跡で後期の住居址が確認されているが、台地上の生活痕跡は依然希薄である。当該機の集落は水田経営に適した低地に面して形成されるようであり、本遺跡より西側の周防畑遺跡群や西近津遺跡群などで大規模集落が確認されている。

古墳時代後期になると、本遺跡周辺の台地上に広く集落が展開するようになる。特に長土呂遺跡群聖原遺跡や芝宮遺跡群などは平安時代まで継続する大規模なものである。

奈良・平安時代には、本調査区を含む長土呂遺跡群、濁川を挟んで北側の芝宮遺跡群、南西の周防畑遺跡群・西近津遺跡群などに大規模集落が形成される。これらの遺跡は遺構・遺物ともに佐久市内において他を圧倒しており、長土呂周辺に佐久郡衙が存在していた可能性が高いと考えられている。本遺跡東側に隣接する聖原遺跡では、6世紀から12世紀前半までの集落跡が調査され、800棟以上の竪穴住居址、850棟以上の掘立柱建物址が検出された。円面硯、帯金具、皇朝十二銭、「伯万私印」の石製印など、郡衙との関連を示唆する遺物が出土しており、律令体制下で形成された計画村落であったと考えられている。本調査区を含めた上聖端遺跡でも同様の時期の竪穴住居址と掘立柱建物址が検出されており、西側に所在する下聖端遺跡や上大林遺跡とともに、聖原遺跡から続く一連の集落と捉えることができる。濁川対岸の芝宮遺跡群においても、円面硯や和同開珎、海獣葡萄鏡などの特殊な遺物が出土しており、溝により区画された範囲が郡衙跡である可能性も指摘されている。現在は田切りにより画されるこれらの遺跡であるが、当時の田切りは現在よりも小規模であり、集落はより広大なものであった可能性も考えられる。また郡衙に関連して、貞観八年（866年）に定額寺に列された「妙楽寺」の存在も注目される。周防畑遺跡群や西近津遺跡群では、寺院に関係する可能性のある瓦が出土しており、周辺に「妙楽寺」が存在した可能性が考えられる。

平安末期には、岩村田を中心とした千曲川右岸に八条院領の大井荘があったと考えられ、鎌倉時代になると、小笠原長清の子、朝光が大井荘に土着し大井氏を名乗るようになる。大井氏は岩村田を中心とする佐久北部に勢力を振り、現在の岩村田の基礎となった。本遺跡周辺では栗毛坂遺跡群前藤部遺跡が大井荘の郷村の一つと考えられ、平安時代末の竪穴住居址や中世の竪穴状遺構、中国産の天目茶碗・青磁・白磁、各種国産陶器が出土している。



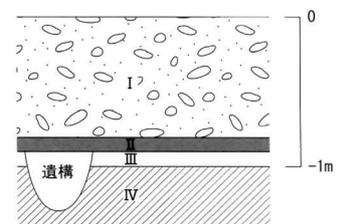
第4図 上聖端遺跡Ⅲ周辺遺跡分布図

■ 発掘調査範囲

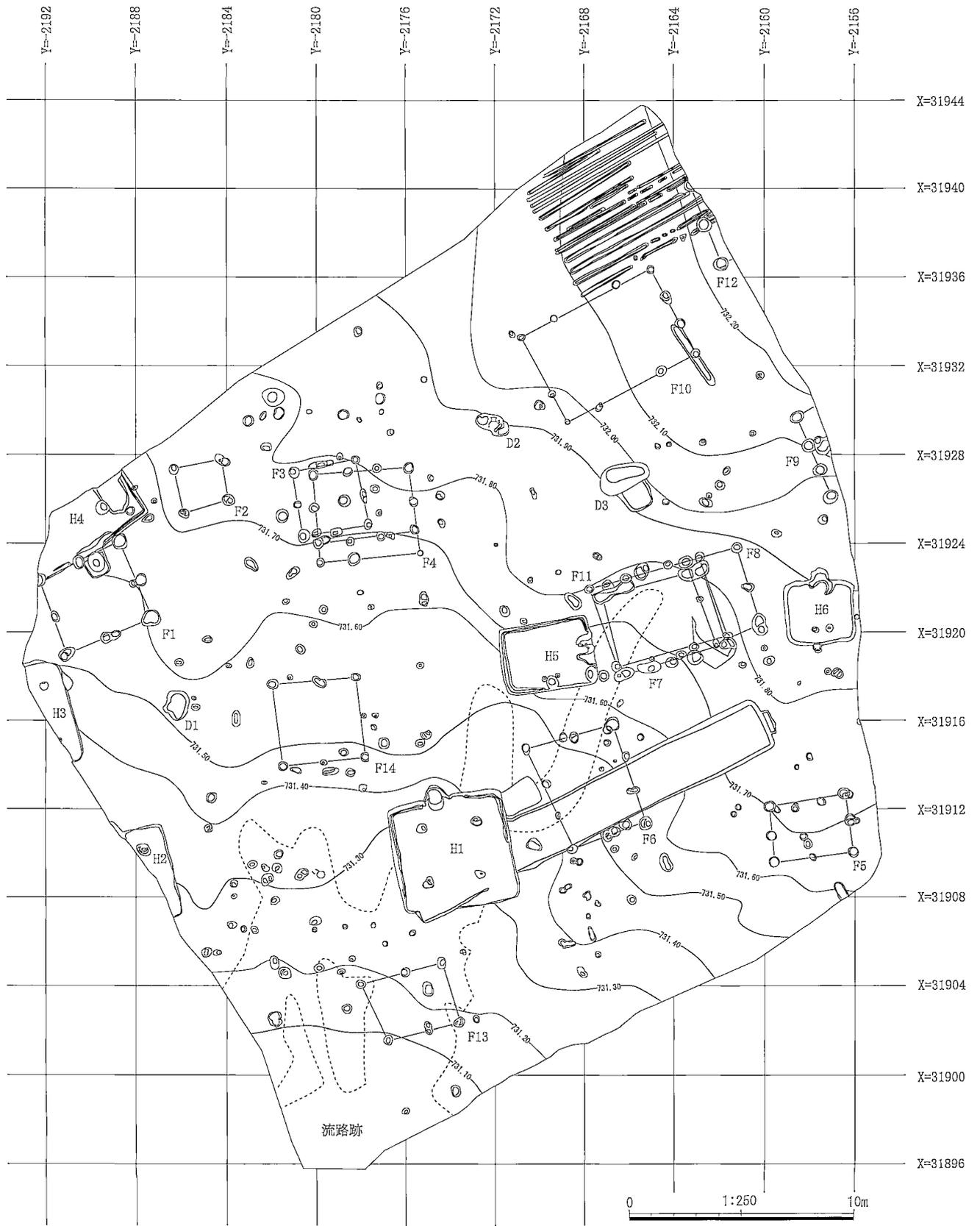
0 1:15,000 4km

第3節 基本層序

本調査区における基本層序は4層に大別できる。Ⅰ層は造成土である。0.1~1.5mの厚さで認められ、南側ほど厚い。Ⅱ層は黒褐色を呈する旧表土である。南側では10cm程度の厚さで確認できるが、北側では削平されている。Ⅲ層は旧表土と地山との漸移層である。南側では10cm程度の厚さで認められるが、中央及び北側では削平されている。遺構はⅢ層上面で確認できた。Ⅳ層は浅間第一軽石流の地山である。北側では造成土直下が地山となる。



第5図 基本層序模式図



第6図 上聖端遺跡Ⅲ調査区全体図

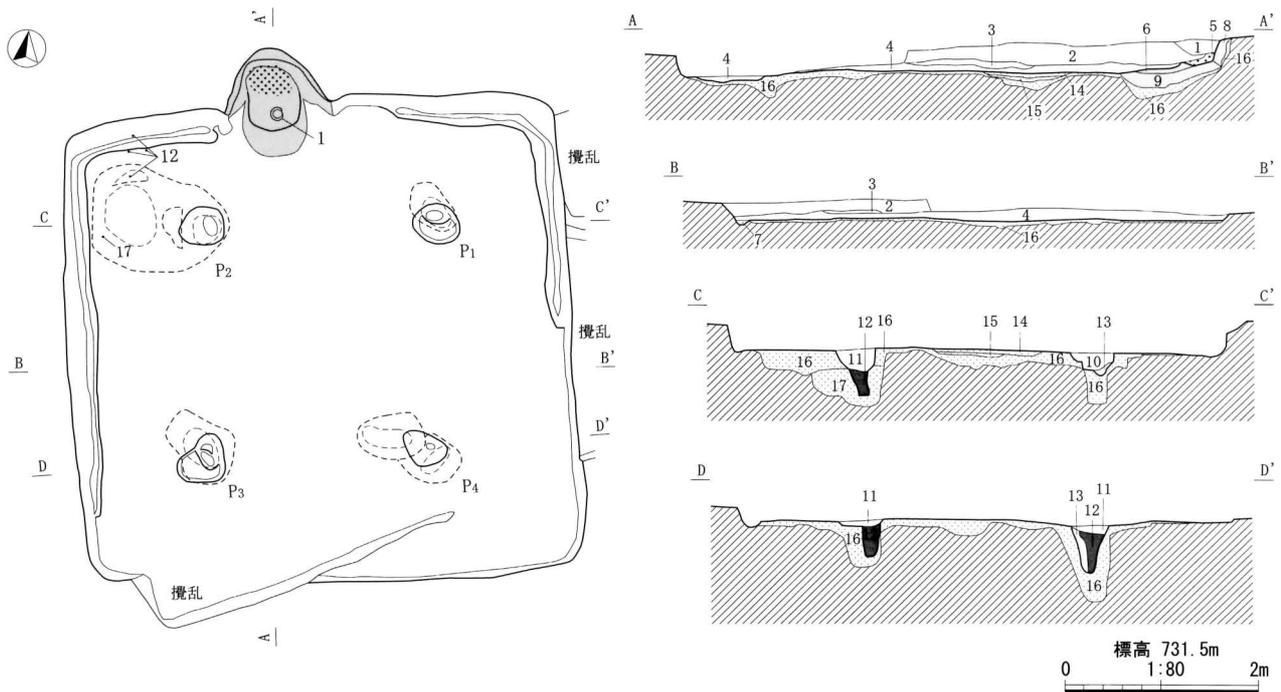
第三章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居址

H1号住居址 調査区中央南寄りのFIXグリッドに位置し、南側の一部を攪乱に切られる。ほぼ正方形を呈し、長軸4.90m、短軸4.83m、床面積22.4㎡、主軸N-5°-Wを測る。壁残高は18~30cmで、東西辺の北側と北辺に壁溝が認められる。柱穴はP1~P4で、柱間は東西2.37m、南北2.46mである。カマドは北辺やや西寄りに設けられ、粘土により構築されている。両袖部はほとんど残っていないが、地山を削り残して袖の基部としている。中央から須恵器の坏(1)が置かれたような状態で出土した。

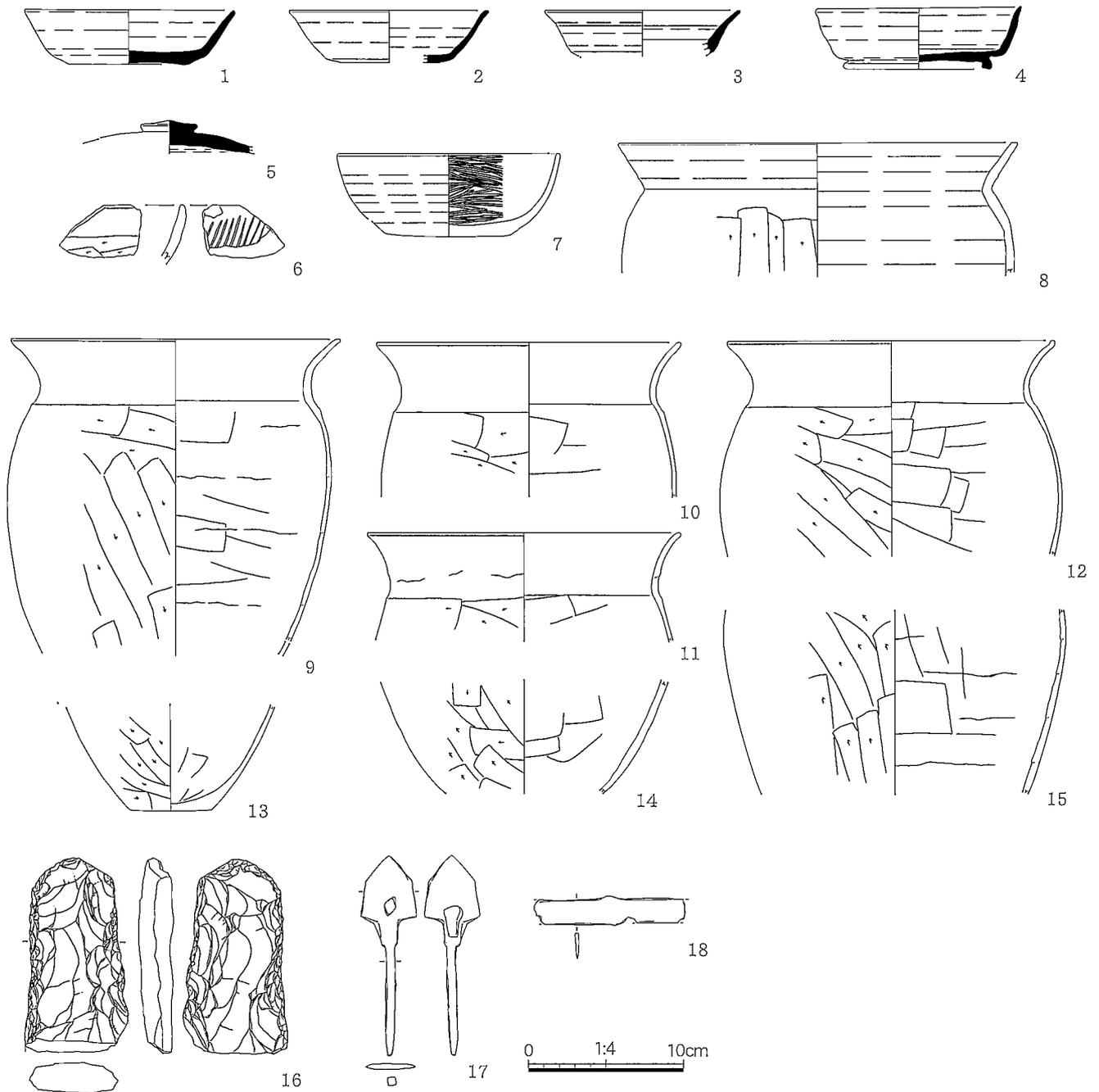
遺物は須恵器の坏・有台坏・蓋、土師器の椀・甕、鉄鏃、打製石斧などが出土している。

1~5は須恵器である。1~3は坏で、1は底部からわずかに外反しながら立上の形態で、底部は回転糸切り後、周囲にヘラケズリが施されている。焼成は良好で火燵痕が認められる。カマド中央に正位で置かれたような状態で出土した。2は底部から内湾外傾して立上り、口縁部がわずかに外反する。底部はヘラキリ後周囲にヘラケズリが施されている。灰白色を呈し焼成不良である。3は外反外傾して立上り、口縁部が強く外反する。焼成は良好である。4は有台坏で、底部から屈曲して立上る。底部は回転糸切り後に高台が付けられており、中央に回転糸切り痕を留める。焼成は良好である。5は坏蓋で、宝珠形つまみを有し天井部にヘラケズリが施される。焼成は良好である。6~15は土師器である。6は非ロクロ成形の坏で、内面には所謂「機内系暗文」が施される。外面は口縁部から体



- | | | | |
|-----------------------|-----------------|-----------------------|---------------|
| 1. 黒褐色土 (10YR3/2) | 粘土ブロック含む。 | 10. 黒褐色土 (10YR3/1) | ロームブロック少量含む。 |
| 2. 黒褐色土 (10YR3/2) | 小ロームブロック少量含む。 | 11. 黒褐色土 (10YR3/2) | ローム少量含む。 |
| 3. 黒褐色土 (10YR3/2) | ロームブロック多量含む。 | 12. 黒褐色土 (10YR3/1) | しまりやや弱い。 |
| 4. 黒褐色土 (10YR3/1) | 粘土ブロック・炭化物少量含む。 | 13. 黒褐色土 (10YR3/1) | ロームブロック多量含む。 |
| 5. 灰褐色土 (5YR4/2) | 粘土・焼土ブロック多量含む。 | 14. 黒褐色土 (10YR3/1) | 小ロームブロック少量含む。 |
| 6. にぶい黄橙色粘土 (10YR7/3) | | 15. にぶい黄橙色土 (10YR6/4) | ロームブロック少量含む。 |
| 7. 黒褐色土 (10YR3/2) | 小ロームブロック少量含む。 | 16. 黒褐色土 (10YR3/1) | ロームブロック多量含む。 |
| 8. 浅褐色土 (2.5Y7/4) | しまり非常に強い。 | 17. にぶい黄橙色土 (10YR7/3) | 黒色土ブロック少量含む。 |
| 9. 橙色粘土 (2.5YR6/6) | 黒色土ブロック少量含む。 | | |

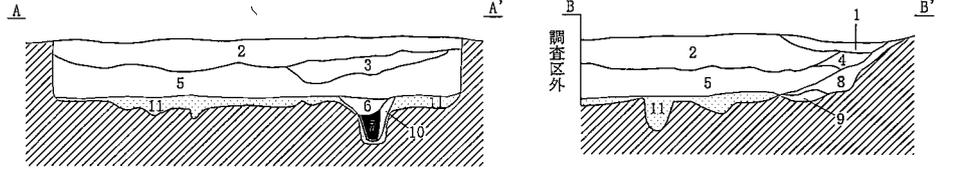
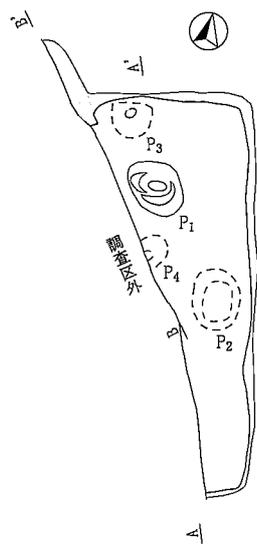
第7図 H1号住居址遺構実測図



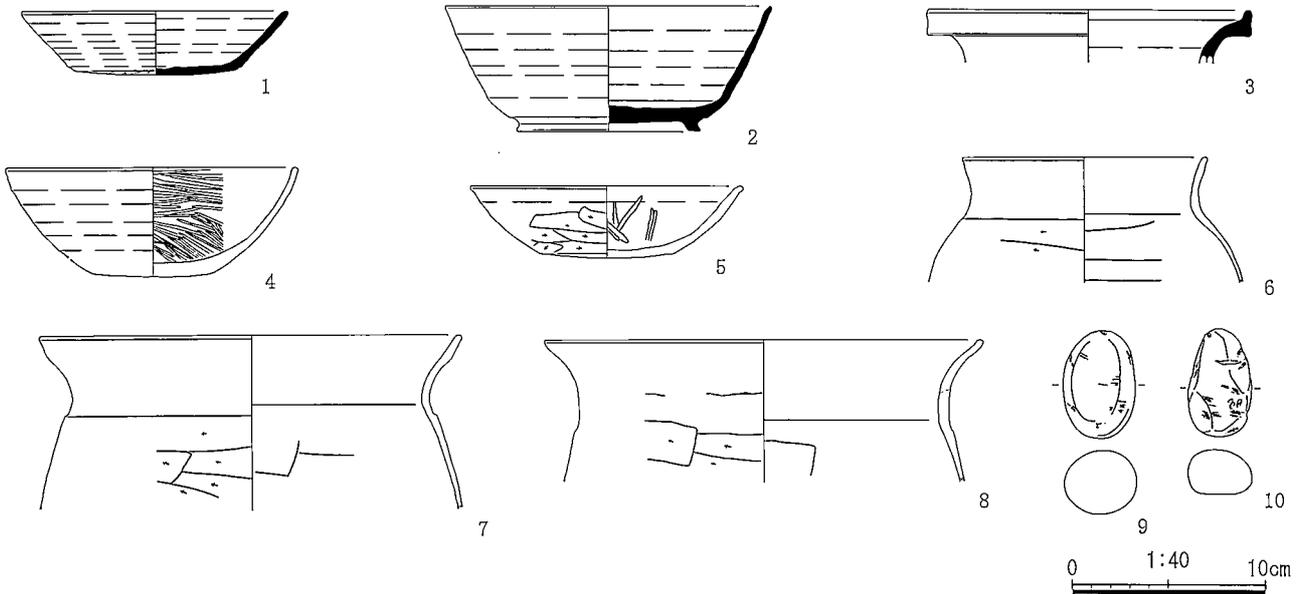
第8図 H1号住居址遺物実測図

部上位にナデが、体部下位にはケズリが施される。緻密な胎土で、群馬県からの搬入品と考えられる。7はロクロ成形の坏で、内面はミガキと黒色処理が施される。底部は切り離し方法は不明だが前面にヘラケズリが施される。8はロクロ甕で、体部外面にはヘラケズリが施される。9～15は武蔵甕である。口縁部は「コ」の字気味で、口縁部と体部上位の径が同等かわずかに体部上位が張る形態である。12は住居址北西角付近の床面上で出土した。16は打製石斧である。安山岩製で薄い板状の剥片を素材としているが、刃部を欠損している。混入品と考えられる。17は鉄鎌である。短頸有茎で鎌身は五角形を呈し、関は角、造込は平である。18は刀子と考えられるが、先端及び基部を欠く。

H1号住居址は、出土遺物の特徴から8世紀第3四半期に位置付けられる。



- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 暗褐色土 (10YR3/3) | 粘土・焼土ブロック少量含む。 |
| 2. 暗褐色土 (10YR3/3) | 黒色土を帯状に少量含む。 |
| 3. 暗褐色土 (10YR3/3) | 黒色土ブロック・小ロームブロック少量含む。 |
| 4. 暗褐色土 (10YR3/3) | 大きい粘土ブロック含む。 |
| 5. 暗褐色土 (10YR3/3) | 焼土ブロック・ロームブロック少量含む。 |
| 6. 黒褐色土 (10YR3/1) | 小ロームブロック少量含む。 |
| 7. 黒褐色土 (10YR3/1) | ロームブロック少量含む。 |
| 8. 橙色粘土 (2.5YR6/6) | 黒褐色土少量含む。 |
| 9. 黒褐色土 (10YR3/1) | 橙色粘土多量含む。 |
| 10. 灰黄褐色砂質土 (10YR6/2) | 黒色土ブロック少量含む。 |
| 11. 黒褐色土 (10YR3/1) | ローム多量含む。 |



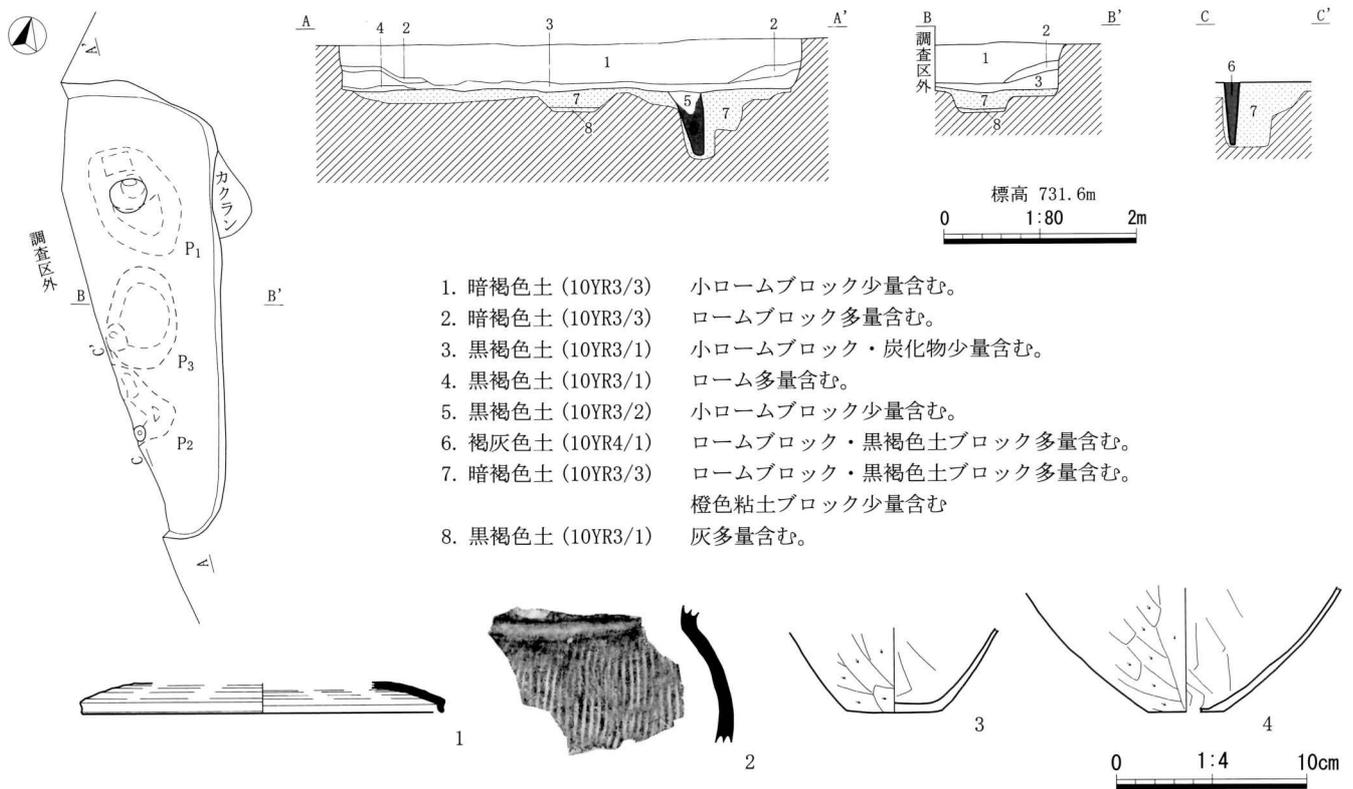
第9図 H2号住居址遺構・遺物実測図

H2号住居址 調査区西端のIIXグリッドに位置し、西側が調査区外に延びる。検出部は長軸4.14m、短軸1.55m、床面積3.2㎡、主軸N-14°-Wを測る。壁残高は63~72cmで、壁溝は認められない。柱穴はP1 1基のみ検出された。カマドは北辺に設けられ、粘土により構築されている。

遺物は須恵器の坏・壺、土師器の坏・壺・甕、軽石製品が出土している。

1~3は須恵器である。1は坏で、底部はヘラキリ後全面に手持ちヘラケズリが施される。平底で体部はわずかに外反しながら立上る。2は有台坏で、底部はヘラキリ後全面に手持ちヘラケズリが施され、高台が付けられている。3は壺である。須恵器の焼成はいずれも良好であり、1には火燵痕が認められる。4~8は土師器である。4はロクロ成形の坏で、底部は切り離し方法は不明だが全面にヘラケズリが施される。内面はヘラミガキと黒色処理が施される。5は非ロクロ成形の坏で、底部から体部にヘラケズリが施され、口縁部にはヨコナデが施される。内面はわずかにヘラミガキが施される。6は土師器の壺と考えられる。7・8は武蔵甕で、頸部は「コ」字気味となり、8は体部の張りが弱く口縁部に最大径をもつ。9は編物石と考えられる。10は軽石製品で、用途は不明だが、楕円形に整形されている。

H2号住居址は出土遺物の特徴から8世紀第3四半期に位置付けられる。



第10図 H3号住居址遺構・遺物実測図

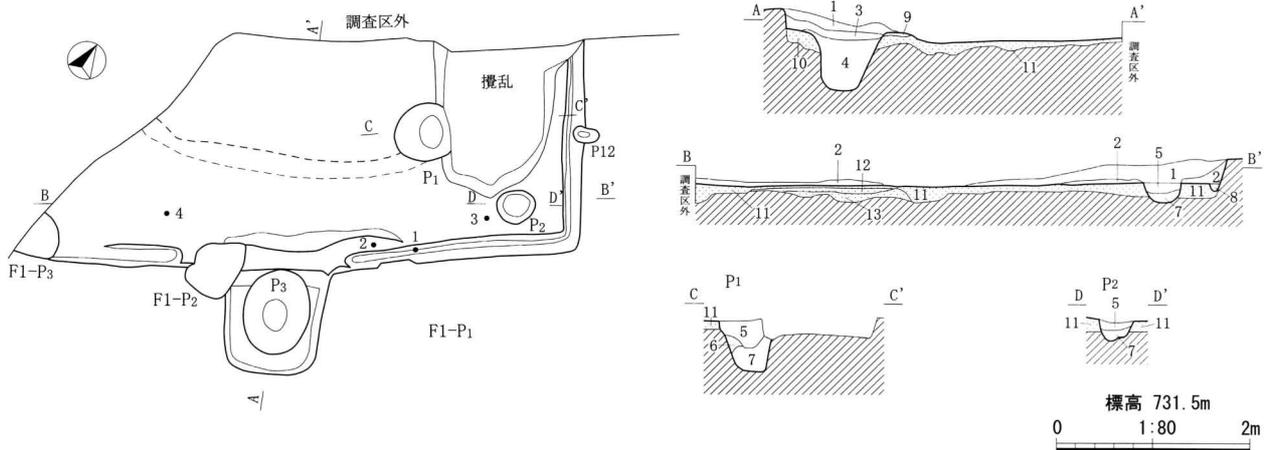
H3号住居址 調査区西端北寄りのJVグリッドに位置し、西側が調査区外に延びる。検出部は長軸4.59m、短軸1.54m、床面積5.2㎡、主軸N-14° -Wを測る。壁残高は42~48cmで、壁溝は認められない。柱穴はP₁・P₂が検出された。柱間は2.56mである。カマドは検出されなかったが、北辺の調査区外にあると考えられる。

遺物は少量だが、須恵器と土師器が出土した。1・2は須恵器である。1は杯蓋で、外面には自然釉が認められる。端部は外面のナデにより強く外反する。焼成は良好である。2は甕の肩部片で、外面にタタキ目がみられる。灰白色を呈し焼成は不良である。3・4は武蔵甕の底部で、いずれも外面にはヘラケズリが施される。出土遺物は少ないが、H1・H2号住居址同様の8世紀第3四半期に位置付けられるものと考えられる。

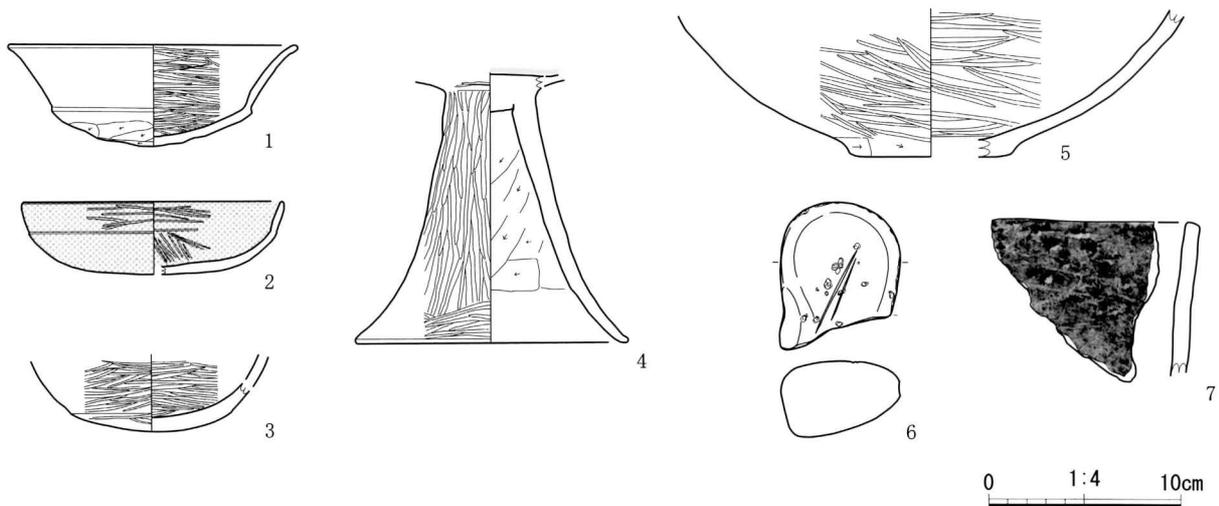
H4号住居址 調査区北西端のJVグリッドに位置し、F1号掘立柱建物址に切られる。西側と北側が調査区外に延びる。全体に攪乱を受けており埋土はほとんど残っていない。検出部は長軸5.35m、短軸2.05m、床面積9.5㎡、主軸N-24° -Wを測る。南辺に長軸1.1m、短軸1.0mの張出部を有する。壁残高は20~25cmで、南辺と東辺に壁溝が認められる。柱穴はP₁の1基が検出された。張出部のP₃は貯蔵穴と考えられる。

遺物は土師器と石製品が出土した。1~5は土師器である。1・2は坏で、1は半球状の底部から体部に段を有し口縁部が外反する。外面は底部にヘラケズリ、口縁部にナデが施される。内面はヘラミガキが施される。2は須恵器杯蓋を模倣したもので、体部と口縁部の境に段を有する。内面及び口縁部外面にミガキが施され、内外面とも赤色塗彩が施される。3は鉢と考えられる。内外面ヘラミガキが施される。4は高坏で、杯部内面には黒色処理が施される。脚部は内面にヘラケズリ、外面にヘラミガキが施される。5は壺の底部である。内外面にヘラミガキが施される。6は敲石である。縁辺に敲打痕が認められる。7は縄文土器で、混入品である。縄文時代後期の粗製深鉢と考えられる。

出土遺物及び張出部を有する住居形態から、6世紀中葉~7世紀初頭に位置付けられる。



- | | | | |
|----------------------|----------------------|-----------------------|---------------------|
| 1. 暗褐色土 (10YR3/3) | 焼土ブロック・炭化物少量含む。 | 8. 黒褐色土 (10YR3/1) | 暗褐色土少量含む。 |
| 2. 黒褐色土 (10YR3/1) | 小ロームブロック・焼土ブロック少量含む。 | 9. にぶい橙色土 (5YR7/4) | しまり強い。黒褐色土少量含む。 |
| 3. 黒褐色土 (10YR3/2) | 小ロームブロック少量含む。 | 10. 灰黄褐色土 (10YR4/2) | ロームブロック多量含む。 |
| 4. 黒褐色土 (10YR3/1) | ロームブロック少量含む。 | 11. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) | ロームブロック多量含む。 |
| 5. 黒褐色土 (10YR3/1) | 暗褐色土少量含む。 | 12. 黒褐色土 (10YR3/1) | しまりやや強い。 |
| 6. にぶい黄橙色土 (10YR6/4) | 黒褐色土ブロック少量含む。 | 13. 明黄褐色土 (10YR7/6) | ロームブロック多量で黒褐色土少量含む。 |
| 7. 暗褐色土 (10YR3/3) | ローム・黒褐色土少量含む。 | | |

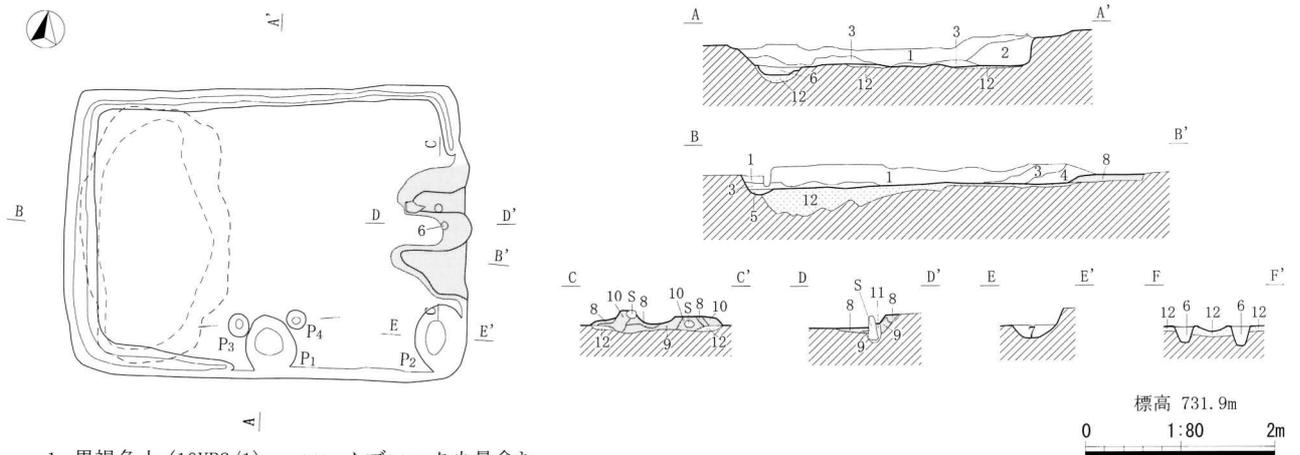


第11図 H4号住居址遺構・遺物実測図

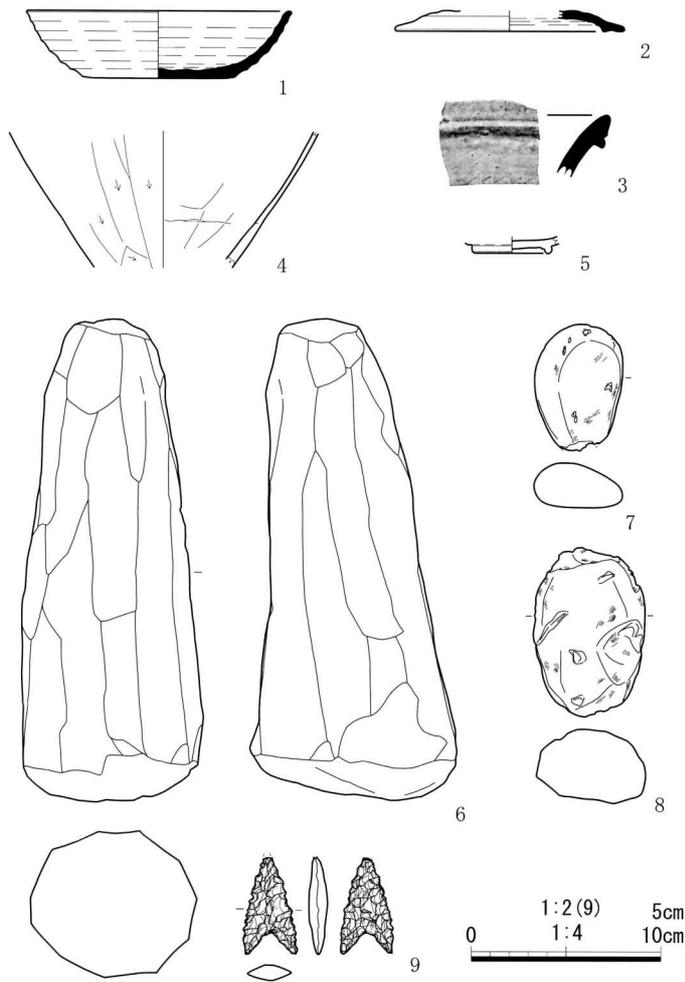
H5号住居址 調査区中央のEⅦグリッドに位置する。東西に長い長方形を呈し、長軸3.64m、短軸2.77m、床面積10.1㎡、主軸N-10°-Wを測る。壁残高は20~32cmで、南辺西側から東辺北側まで壁溝が巡る。柱穴は確認されなかった。P1・P2は貯蔵穴と考えられる。P3・P4は出入り口施設と考えられる。カマドは東壁中央に設けられ、粘土と礫で構築されている。中央には支脚石が立てられていた。

遺物は須恵器・土師器・灰釉陶器、石製品、石器が出土した。1~3は須恵器である。1は坏で、底部回転ヘラキリ後全面ヘラケズリが施される。焼成は不良で一部赤褐色を呈する。2は坏蓋で、内面にかえりを有する。3は壺ないし甕の口縁部である。4は武蔵甕である。5は灰釉陶器の皿の底部片で、高台は断面三角形を呈する。6はカマドの支脚石である。軽石を削って成形している。7・8は軽石製品である。楕円形に整形されているが用途は不明である。9は石鎌である。混入品と考えられる。

H5号住居址は8世紀第3四半期に位置付けられるものと考えられる。



- | | | | |
|-------------------|---------------|------------------------|---------------|
| 1. 黒褐色土 (10YR3/1) | ロームブロック少量含む。 | 8. 黒褐色粘質土 (10YR3/1) | |
| 2. 暗褐色土 (10YR3/3) | 黒褐色土ブロック少量含む。 | 9. にぶい黄褐色粘土 (10YR5/4) | 黒褐色土多量含む。 |
| 3. 黒褐色土 (10YR3/1) | ローム少量含む。 | 10. にぶい褐色粘土 (7.5YR6/3) | 黒褐色土ブロック少量含む。 |
| 4. 黒褐色土 (10YR3/1) | 小ロームブロック少量含む。 | 11. 暗褐色土 (10YR3/3) | ローム少量含む。 |
| 5. 黒褐色土 (10YR3/1) | ロームブロック少量含む。 | 12. 黒褐色土 (10YR3/2) | ロームブロック多量含む。 |
| 6. 暗褐色土 (10YR3/3) | 小ロームブロック少量含む。 | | |
| 7. 黒色土 (10YR2/1) | 小ロームブロック少量含む。 | | |

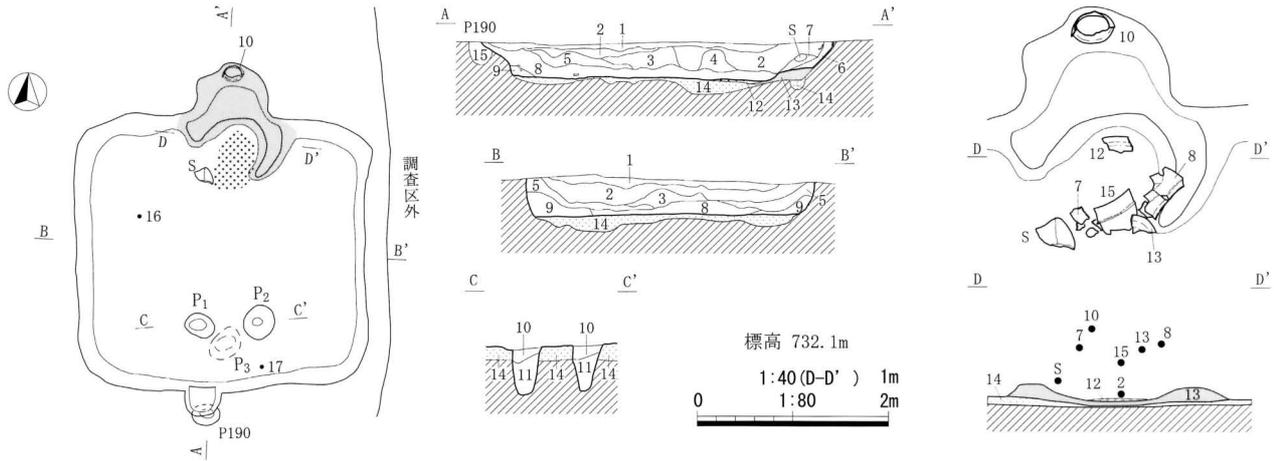


第12図 H5号住居址遺構・遺物実測図

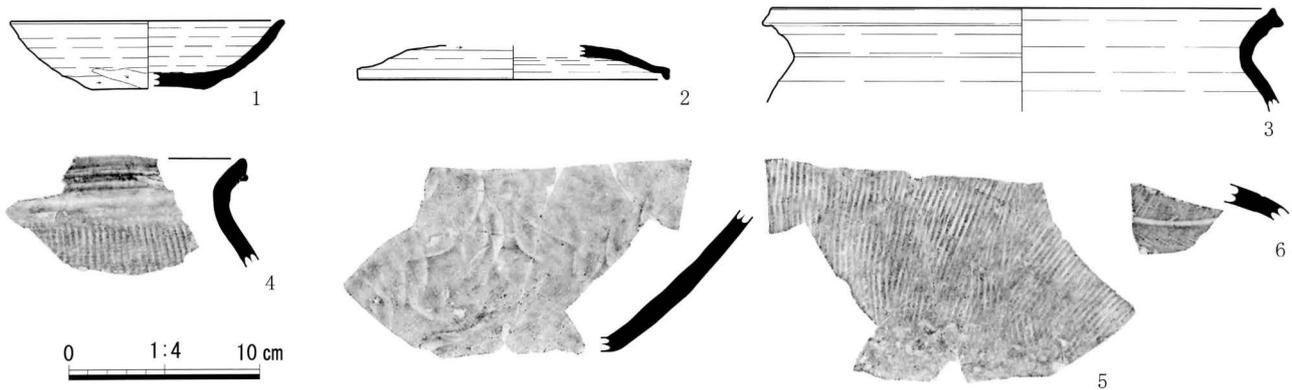
H6号住居址 調査区東端のBVIグリッドに位置する。ほぼ正方形を呈し、長軸2.78m、短軸2.71m、床面積6.9㎡、主軸N-3°-Wを測る。壁残高は31~40cmで、壁溝は認められない。柱穴は確認されなかった。P₁・P₂は出入り口施設と考えられる。南辺中央がわずかに張出し、P190が存在する。P190も本住居址に伴う遺構である可能性も考えられる。カマドは北壁中央に設けられ、煙道部及び袖部の粘土がわずかに遺存していた。粘土と礫で構築されたと考えられ、西側袖部で検出された礫もカマドに使われたものと考えられる。煙道部には武蔵甕(10)が転用されており、口縁部を下にして粘土で固定されていたと考えられる。カマド燃焼部付近では床面および埋土第2・8層中より土師器の甕や羽釜が出土している。

遺物は須恵器の坏・杯蓋・甕・壺、土師器の甕・羽釜、刀子、砥石が出土した。

1~6は須恵器である。1は坏で、底部は回転糸切り後周囲にヘラケズリが施される。2は杯蓋で、天井部にはヘラケズリが施される。3~5は甕である。いずれも体部外面に平行叩目が認められる。3・4は肥厚する口縁部直下に断面三角

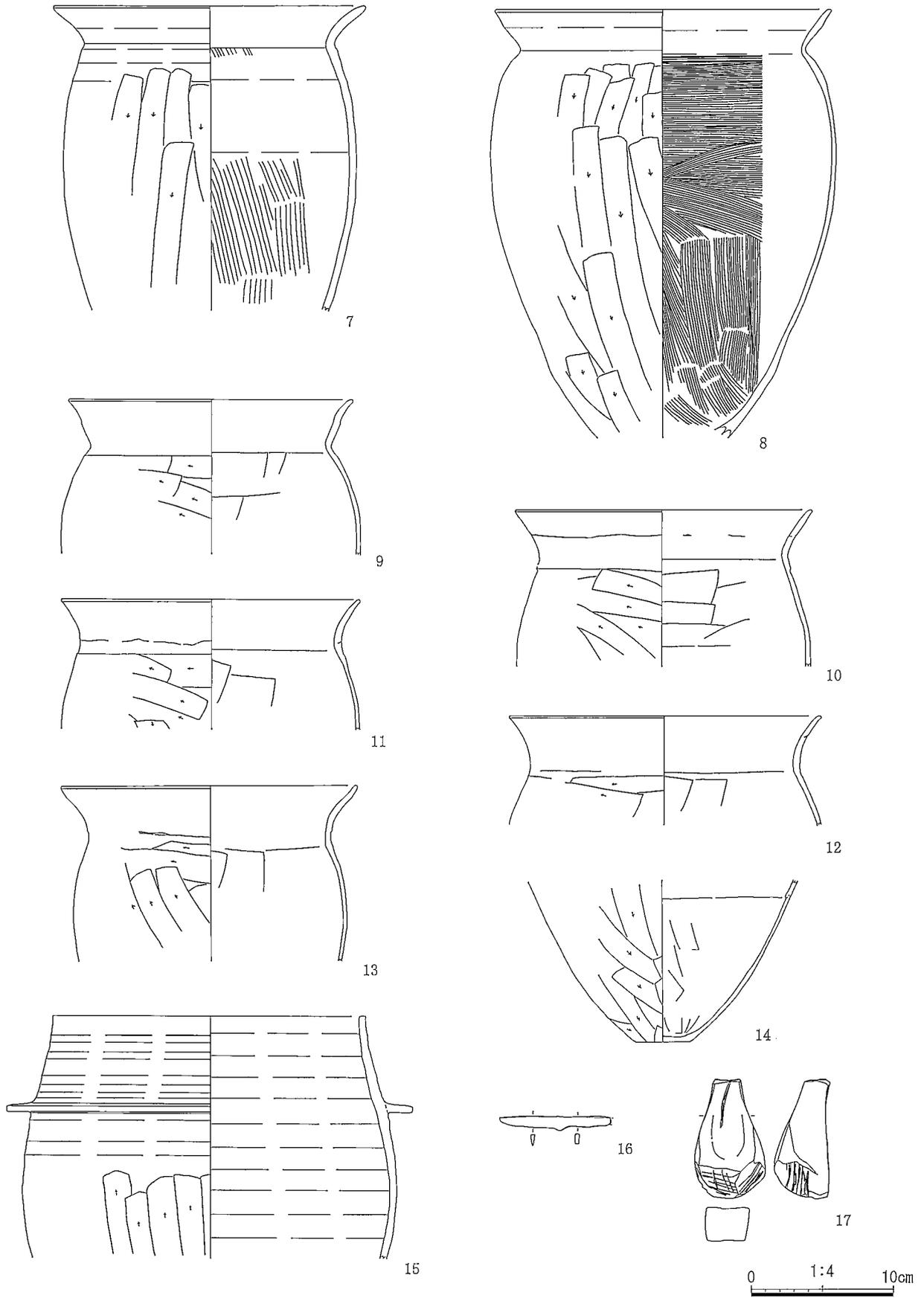


- | | | | |
|-------------------|---------------|---------------------|-----------------|
| 1. 褐灰色土 (10YR4/1) | 小ロームブロック少量含む。 | 8. 黒褐色土 (10YR3/2) | 小ロームブロック・砂少量含む。 |
| 2. 暗褐色土 (10YR3/3) | ロームブロック多量含む。 | 9. 黒褐色土 (10YR3/2) | ローム少量含む。 |
| 3. 黒色土 (10YR2/1) | ロームブロック少量含む。 | 10. 黒褐色土 (10YR3/2) | 小ロームブロック少量含む。 |
| 4. 黒色土 (10YR2/1) | 粘土ブロック多量含む。 | 11. 暗褐色土 (10YR3/3) | 小ロームブロック少量含む。 |
| 5. 黒褐色土 (10YR3/1) | 小ロームブロック少量含む。 | 12. 黒褐色土 (10YR3/1) | 炭化物少量含む。 |
| 6. 黒褐色土 (10YR3/2) | ローム少量含む。 | 13. 暗褐色粘土 (10YR3/3) | ロームブロック少量含む。 |
| 7. 暗褐色土 (10YR3/3) | 粘土ブロック少量含む。 | 14. 黒褐色土 (10YR3/1) | ロームブロック多量含む。 |
| | | 15. 黒褐色土 (10YR3/2) | ローム少量含む。 |



第13図 H6号住居址遺構・遺物実測図(1)

形の突帯を貼り付けている。4は接合痕が認められ、焼成も不良でやや粗雑な造りといえる。5は底部で外面に平行叩目が認められる。4と同一個体と考えられる。6は長頸壺の肩部片で、沈線と櫛歯状の刺突文が認められる。7～15は土師器である。7・8はロクロ甕である。7の頸部は「く」の字を呈し、口縁部に最大径を有する。外面は体部にヘラケズリ、頸部から口縁部にロクロナデが施される。内面は頸部までハケ目調整が認められるが、その後体部上半からロクロナデが施される。8の頸部は「く」の字を呈し、胴部に最大径を有する。外面は体部にヘラケズリ、頸部から口縁部にロクロナデが施される。内面は体部下半に縦ないし斜め方向のハケ目が、体部上半にはカキメが、口縁部にはロクロナデが施される。9～14は武蔵甕である。頸部は「く」の字を呈するもの(9・10)と「コ」の字気味となるもの(11～12)、「コ」の字を呈するもの(13)があるが、いずれも口縁部と胴部最大径がほぼ同径となる。15はロクロ成形の羽釜である。胴部最大径から内傾して口縁部に至り、端部は面取りされる。体部外面下半にはヘラケズリが施される。16は鉄製の刀子と考えられる。17は砥石で、上部を欠損するが4面全体を使用している。遺物の特徴から本址は8世紀第3四半期に位置付けられる。

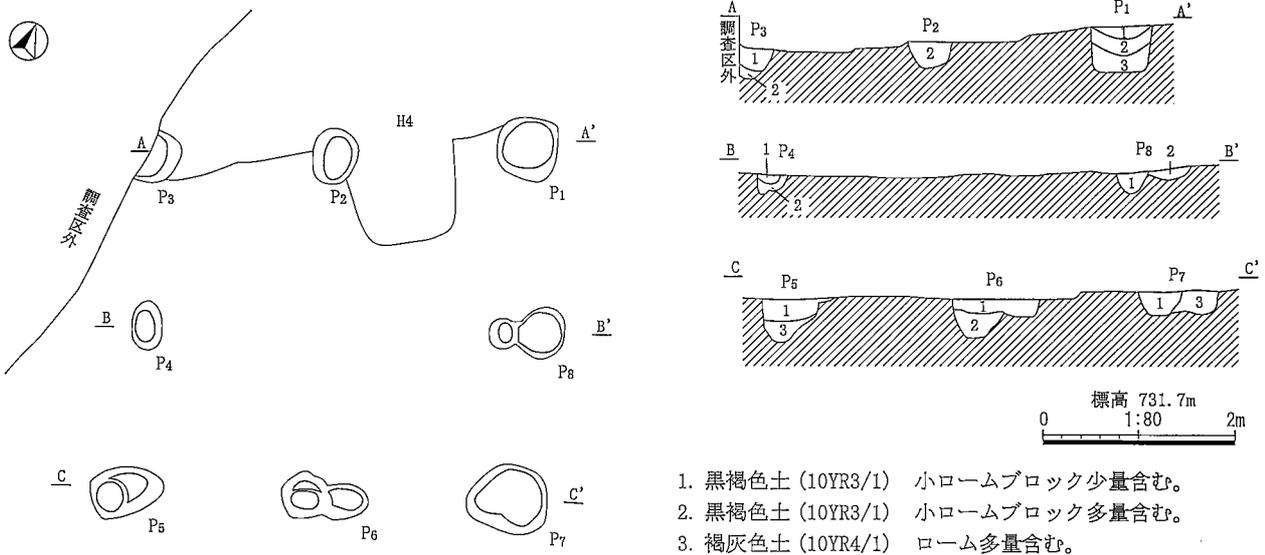


第14图 H6号住居址遺物実測図(2)

第2節 掘立柱建物址

F1号掘立柱建物址 調査区北西端のIVI、JV・VI・VIIグリッドに位置し、H4号住居址を切る。桁行2間、梁行2間の長方形を呈する側柱建物である。東西4.20m×南北3.76m、主軸はN-16°-W、面積15.3㎡を測る。柱間は東西2.00～2.15mで平均2.05m、南北1.78～1.98mで平均1.84mを測る。柱穴は楕円形を基調とし、深さは20～47cmである。

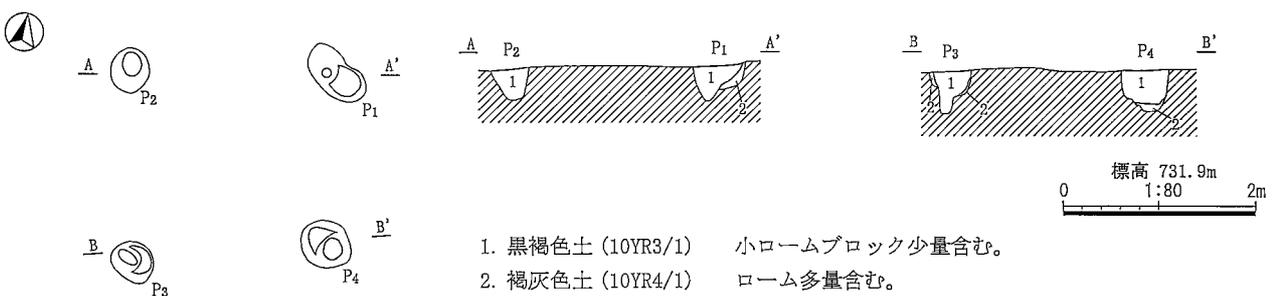
遺物は奈良・平安時代と考えられる土師器片が出土した。



第15図 F1号掘立柱建物址遺構実測図

F2号掘立柱建物址 調査区北西のHV、IVグリッドに位置する。東西1間、南北1間の正方形を呈する建物である。東西2.16m×南北2.01m、主軸はN-11°-W、面積4.1㎡を測る。柱間は東西が2.16mと2.07mで平均2.12m、南北が1.84mと2.01mで平均1.93mである。柱穴は円形だがP1のみ楕円形を呈し、深さは37～44cmである。

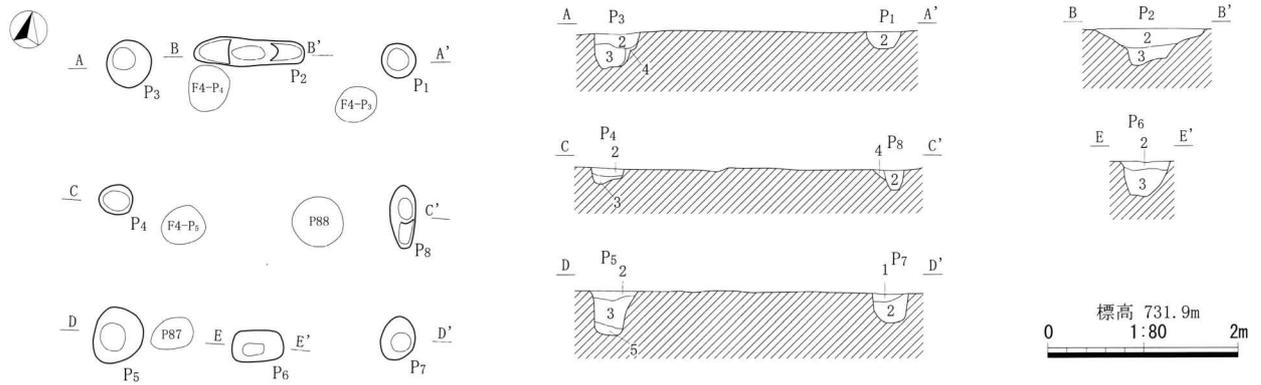
遺物は奈良・平安時代と考えられる土師器片が出土した。



第16図 F2号掘立柱建物址遺構実測図

F3号掘立柱建物址 調査区中央北側のGV、HVグリッドに位置する。東西2間、南北2間の正方形を呈する側柱建物である。東西2.99m×南北2.99m、主軸はN-9°-W、面積9.1㎡を測る。柱間は東西1.33～1.56mで平均1.47m、南北1.39～1.56mで平均1.46mである。柱穴は円形だが、P2・P8のみ楕円形を呈する。深さは16～45cmである。柱穴の切り合い関係はないが、F4号掘立柱建物址と重なるため、建て替えが行われたものと考えられる。

遺物は古墳時代～平安時代と考えられる土師器片が出土した。

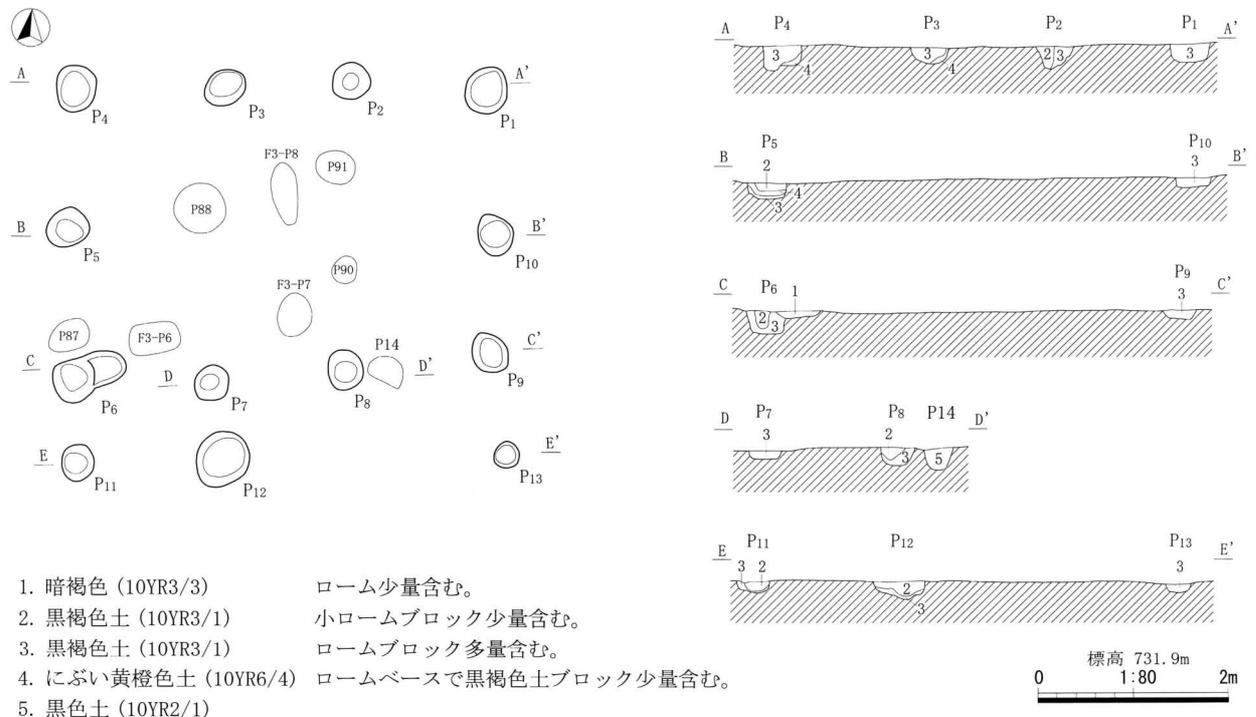


- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|
| 1. 黒褐色土 (10YR3/2) 小ロームブロック少量含む。 | 3. 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック多量含む。 |
| 2. 黒褐色土 (10YR3/1) 小ロームブロック・暗褐色土少量含む。 | 4. 黒褐色土 (10YR3/1) ローム多量含む。 |
| | 5. 褐灰色砂質土 (10YR5/1) ローム少量含む。 |

第17図 F3号掘立柱建物址遺構実測図

F4号掘立柱建物址 調査区中央北側のFV・VI、GV・VI、HV・VIグリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の長方形を呈する側柱建物で、南側に底が付くと考えられる。桁行4.37m×梁行3.10m、主軸はN-85°-E、面積13.5㎡を測る。底を含めると梁行3.98m、面積17.5㎡となる。柱間は桁行1.31～1.58mで平均1.45m、梁行1.25～1.55mで平均1.46mである。底部分の柱間は桁行の西側が1.51m、東側が2.96mである。東側が広がるが、これを2間分とすれば、桁行の平均は1.49mとなる。梁行では0.81～1.09mで、平均0.94mとなる。柱穴は円形で、深さは8～26cmである。柱穴の切り合いはないが、F3号掘立柱建物址と重なるため、建て替えが行われたものと考えられる。

遺物は奈良・平安時代と考えられる土師器片が出土した。

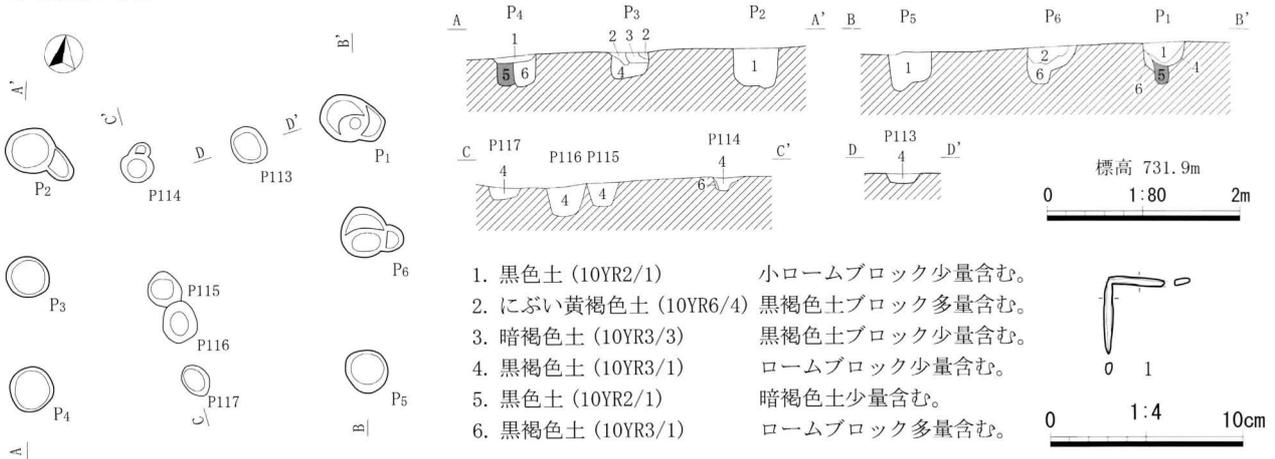


- | |
|---|
| 1. 暗褐色 (10YR3/3) ローム少量含む。 |
| 2. 黒褐色土 (10YR3/1) 小ロームブロック少量含む。 |
| 3. 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック多量含む。 |
| 4. にぶい黄橙色土 (10YR6/4) ロームベースで黒褐色土ブロック少量含む。 |
| 5. 黒色土 (10YR2/1) |

第18図 F4号掘立柱建物址遺構実測図

F5号掘立柱建物址 調査区南東端のBVIII・IXグリッドに位置する。桁行1間、梁行2間の長方形を呈する側柱建物である。桁行3.55m×梁行2.58m、主軸はN-81°-E、面積9.1㎡を測る。柱間は桁行の北辺が3.42m、南辺が3.55mで平均3.49m、梁行は1.20～1.35mで平均1.28mである。深さは25～43cmで、P₁とP₄では柱痕が認められ、柱径はP₁で13.2cm、P₄で16.8cmを測る。P113・P114・P117が本址に伴う柱穴である可能性が考えられるが、その場合、桁行が北辺では3間、南辺で2間となる。柱間は北辺1.09～1.16mで平均1.14m、南辺西側が1.68m、東側が1.86mで平均1.77mとなる。P113・P114・P117については深さが10～13cmと他の柱穴に比べて掘り込みが浅い。

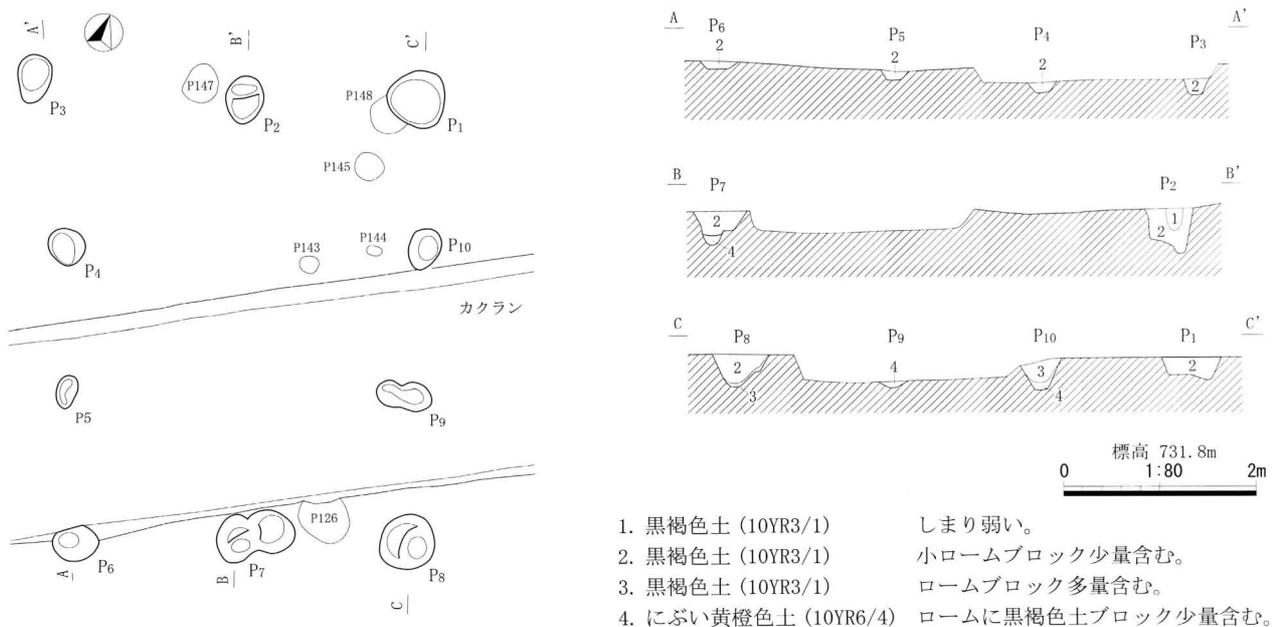
遺物はP₅より鏃と考えられる鉄製品が1点出土し、奈良・平安時代と考えられる須恵器・土師器片が出土した。



第19図 F5号掘立柱建物址遺構・遺物実測図

F6号掘立柱建物址 調査区中央南寄りのDVIII・IX、E VIII・IXグリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の長方形を呈する側柱建物である。桁行5.01m×梁行4.08m、主軸はN-19°-W、面積18.6㎡を測る。柱間は桁行1.46～1.87mで平均1.63m、梁行1.79～2.18mで平均1.92mである。柱穴は円形ないし楕円形で深さは6～47cmである。

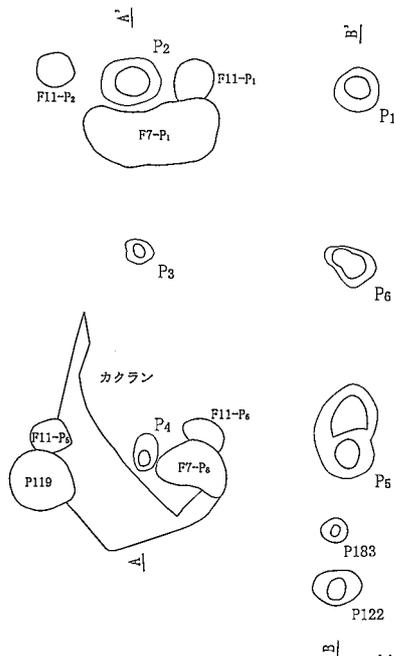
遺物は奈良・平安時代と考えられる須恵器・土師器片が出土した。



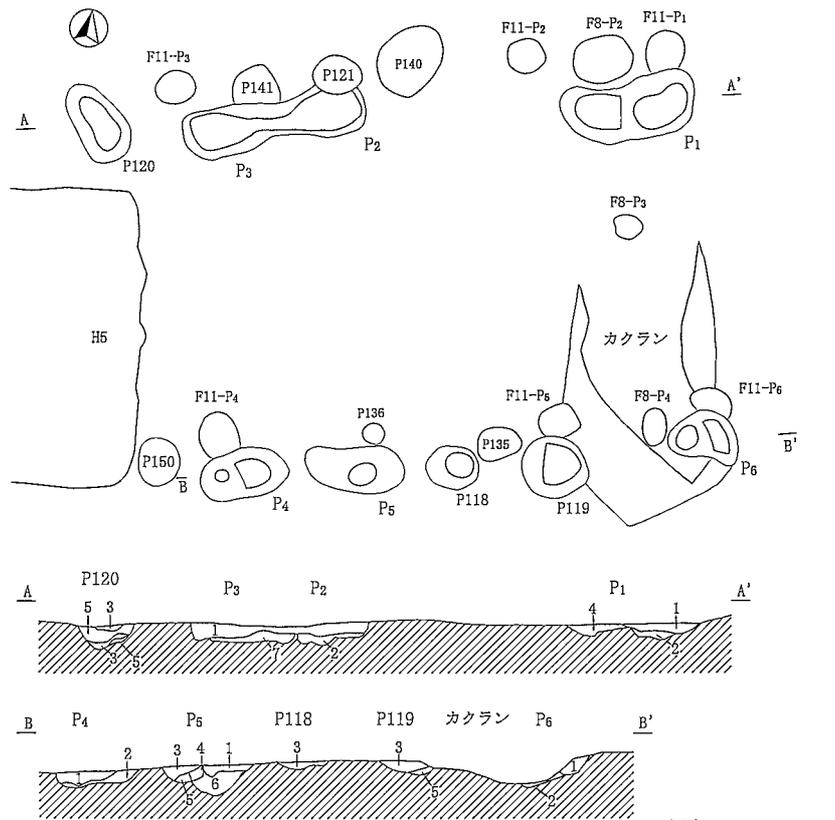
第20図 F6号掘立柱建物址遺構実測図

F7号掘立柱建物址 調査区中央東寄りのCVI・VII、DVI・VIIグリッドに位置し、F11号掘立柱建物を切る。桁行2間、梁行1間の長方形を呈する側柱建物である。桁行4.88m×梁行3.64m、主軸はN-74°-E、面積17.6㎡を測る。柱間は桁行西側が1.29m、東側が3.55mであるが、東側を2間分とすれば平均1.61mとなる。P119が柱穴となり南辺が3間となる可能性も考えられるが、その場合P5とP119間は1.99m、P119とP6間は1.32mとなる。梁行は西辺が3.64m、東辺が3.48で平均3.56mである。柱穴は楕円形でP2とP3は溝により連結し、P4とP5も溝により連結していた可能性がある。深さは16～31cmである。柱穴の切り合い関係はないが、建物範囲がF8号掘立柱建物址と重なるため、時期差を有すると考えられる。

遺物は奈良・平安時代と考えられる須恵器・土師器片が出土した。

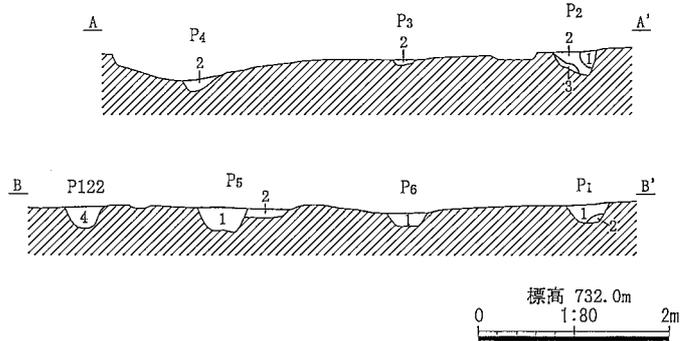


第22図 F8号掘立柱建物址遺構実測図



1. 黒褐色土 (10YR3/1) 小ロームブロック少量含む。
2. にぶい黄橙色土 (10YR6/4) 黒褐色土ブロック少量含む。
3. 黒褐色土 (10YR3/1)
4. 黒褐色土 (10YR3/1) 小ロームブロック極多量含む。
5. 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック含む。
6. 黒褐色土 (10YR3/1) 小ロームブロック多量含む。
7. 暗褐色土 (10YR3/3) 小ロームブロック多量含む。

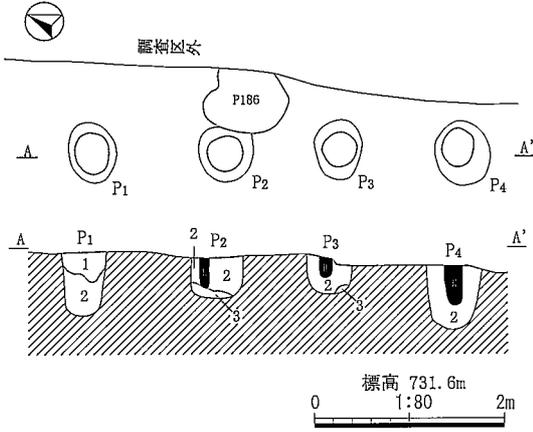
第21図 F7号掘立柱建物址遺構実測図



1. 黒色土 (10YR2/1) ローム少量含む。
2. 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック多量含む。
3. 明黄褐色土 (10YR6/6) 黒褐色土ブロック少量含む。
4. 黒褐色土 (10YR3/1)

F8号掘立柱建物址 調査区中央東寄りのCVI・VIIグリッドに位置する。桁行2間、梁行1間の長方形を呈する側柱建物である。桁行3.97m×梁行2.37m、主軸はN-20°-W、面積8.7㎡を測る。柱間は桁行1.77～2.20mで平均1.95m、梁行は北辺が2.37m、南辺が2.09mで平均2.23mである。柱穴は円形または楕円形で深さは6～25cmである。柱穴の切り合い関係はないが、建物範囲がF7号掘立柱建物址と重なるため、時期差を有すると考えられる。

遺物は奈良・平安時代と考えられる須恵器・土師器片が出土した。。



1. 暗褐色土 (10YR3/3) ローム少量含む。
2. 黒色土 (10YR2/1) 小ロームブロック少量含む。
3. 褐灰色土 (10YR4/1) ロームブロック多量含む。

第23図 F9号掘立柱建物址遺構実測図

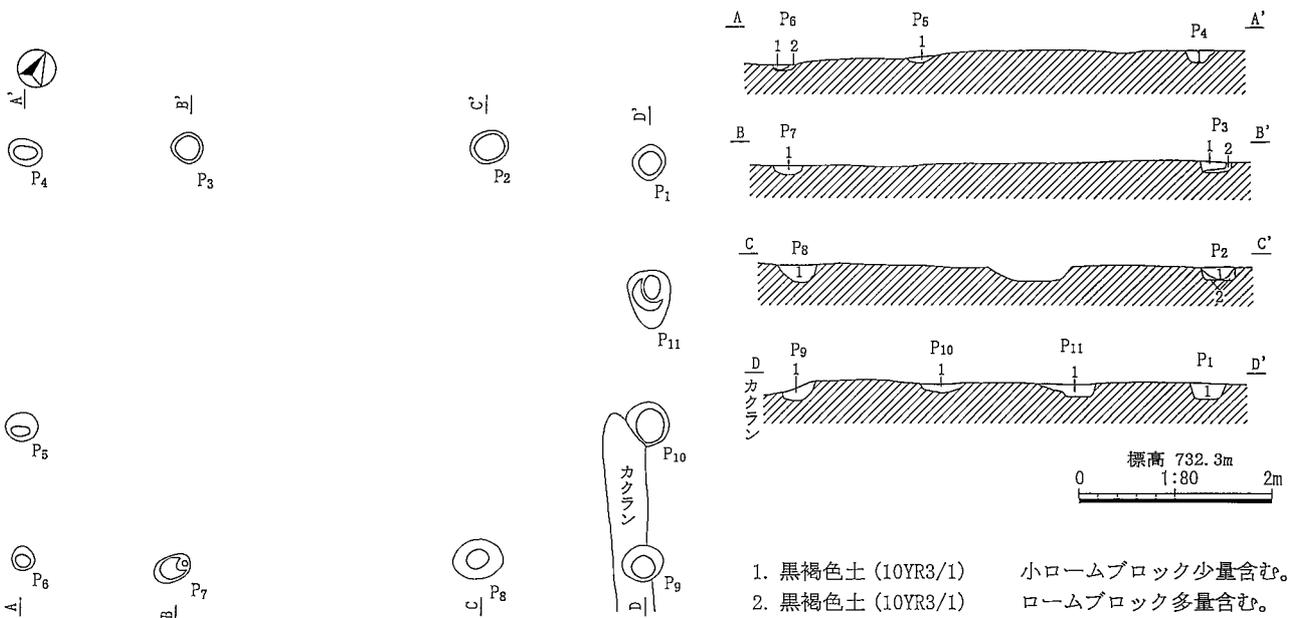
1.63mとなる。梁行では西辺北側の柱穴がないため、P4・P5間が2.93mとなるが、それ以外は1.31～1.53mで平均1.43mである。柱穴は円形で深さは6～20cmである。

遺物は奈良・平安時代と考えられる須恵器・土師器片が出土した。

F9号掘立柱建物址 調査区中央東端のBIV・Vグリッドに位置し、東側が調査区外に延びる掘立柱建物址と考えられる。南北3間で3.85m、主軸はN-24°-Wを測る。柱間は1.29～1.36mで平均1.32mを測る。柱穴は円形で深さは38～67cmである。P2・P3・P4において柱痕と考えられる暗褐色土層が確認された。掘方を第2層および第3層で埋めながら柱を固定したようである。

遺物は奈良・平安時代と考えられる須恵器・土師器片が出土した。

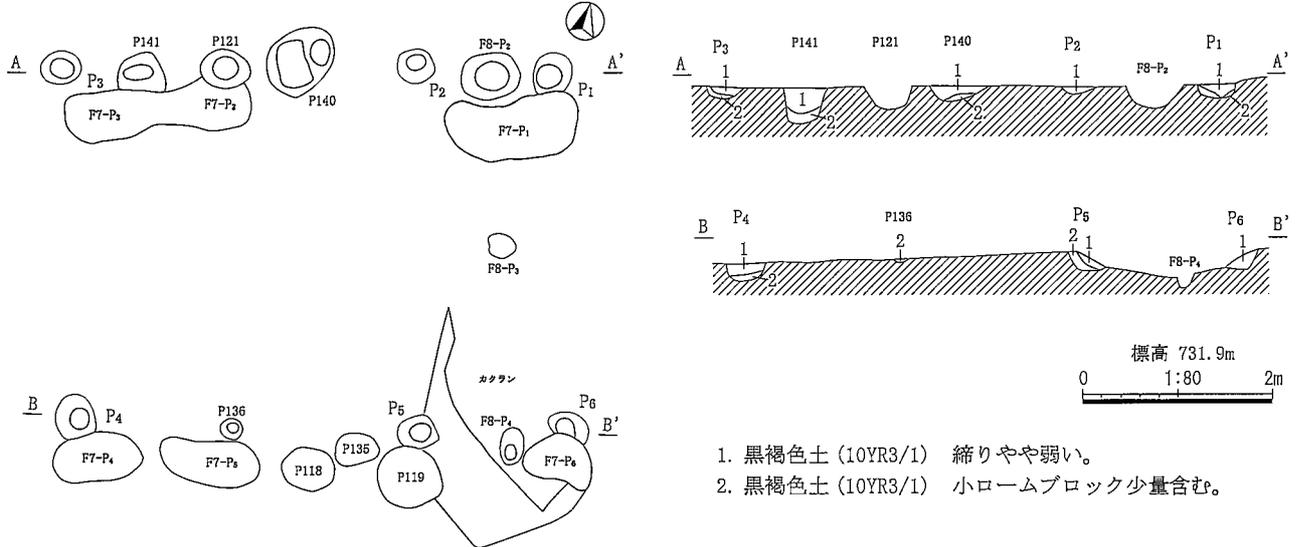
F10号掘立柱建物址 調査区北東部のCⅢ、DⅡ・Ⅲ・Ⅳ、EⅢ・Ⅳグリッドに位置する。桁行3間、梁行3間の長方形を呈する側柱建物である。桁行6.55m、梁行4.35m、面積28.9㎡、主軸はN-61°-Eを測る。柱間は桁行で1.69～3.14mと中央の柱間が広がるが、桁行を4間分とすれば平均



1. 黒褐色土 (10YR3/1) 小ロームブロック少量含む。
2. 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック多量含む。

第24図 F10号掘立柱建物址遺構実測図

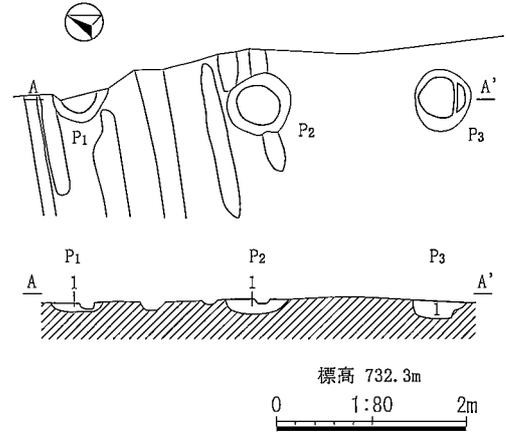
F11号掘立柱建物址 調査区中央東端のCVI・VII、DVI・VIIグリッドに位置し、F7号掘立柱建物に切られる。桁行2間、梁行1間の長方形を呈する側柱建物である。桁行5.11m、梁行3.72m、面積18.9㎡、主軸はN-74°-Eを測る。柱間は桁行1.40~3.68mで西側の柱間が広がるが、これを3間分と考えれば平均1.69mとなる。梁行は西側が3.70m、東側が3.72mで平均3.71mである。柱穴は円形で深さは8~19cmである。四隅の柱穴がF7号掘立柱建物址と切り合い、主軸方向も同一であることから、F11からF7への建て替えが想定される。遺物は出土しなかった。



第25図 F11号掘立柱建物址遺構実測図

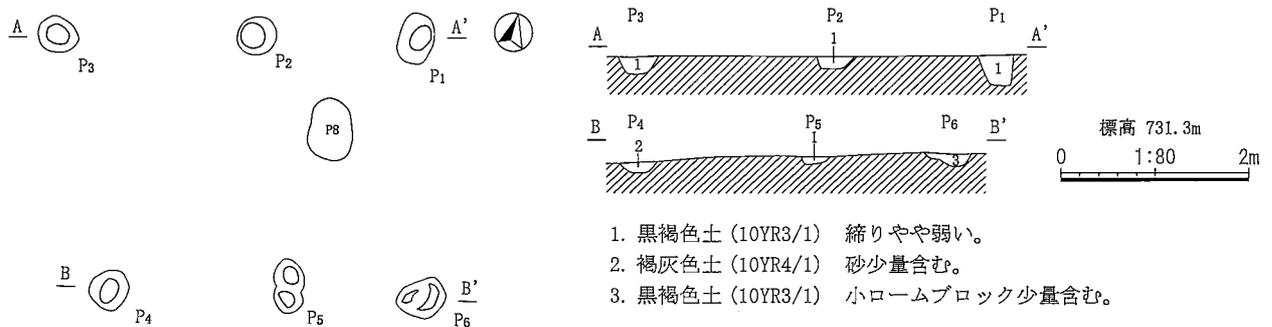
F12号掘立柱建物址 調査区北東端のCI・IIグリッドに位置し、東側が調査区外に延びる掘立柱建物址と考えられ、畝状遺構に切られる。南北2間で3.70m、主軸はN-21°-Wを測る。柱間はいずれも1.85mである。柱穴は円形で深さは9~19cmである。

遺物は奈良・平安時代と考えられる土師器片が出土した。



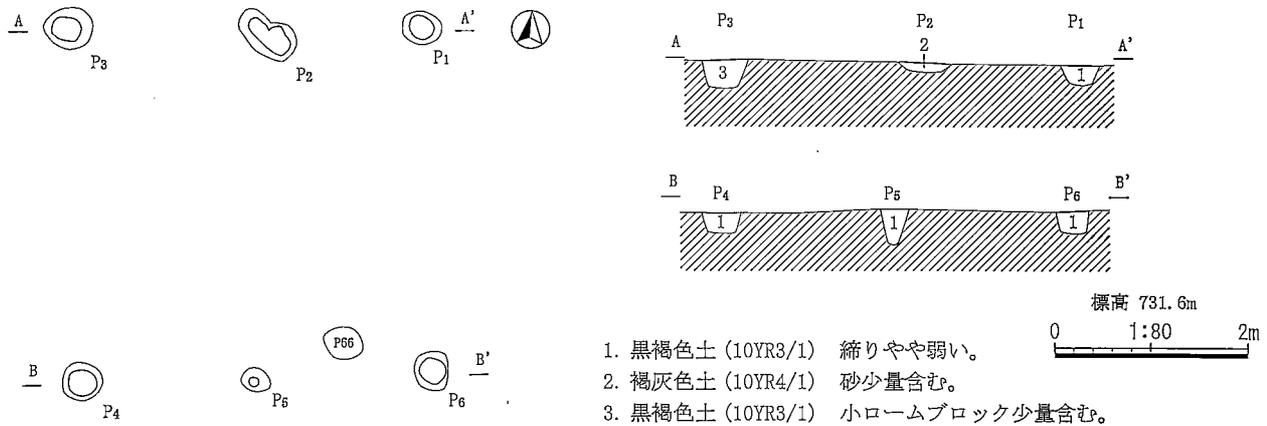
第26図 F12号掘立柱建物址遺構実測図

F13号掘立柱建物址 調査区中央南側のFX・XI、GX・XIグリッドに位置する。桁行2間、梁行1間の長方形を呈する側柱建物である。桁行3.79m、梁行2.78m、面積9.8㎡、主軸はN-76°-Eを測る。柱間は桁行1.51~2.05mで平均1.79m、梁行はいずれも2.78mである。柱穴は円形または楕円形を呈し、深さは8~32cmである。遺物は検出されなかった。



第27図 F13号掘立柱建物址遺構実測図

F14号掘立柱建物址 調査区中央西寄りのGVII・VIII、HVII・VIIIグリッドに位置する。東西2間、南北1間の正方形を呈する側柱建物である。東西3.72m、南北3.71m、面積13.8㎡、主軸はN-88°-Eを測る。柱間は東西1.59~2.11mで平均1.85mとなる。南北は西側が3.71m、東側が3.63mで平均3.67mである。柱穴は円形および楕円形で深さは10~37cmである。遺物は出土しなかった。



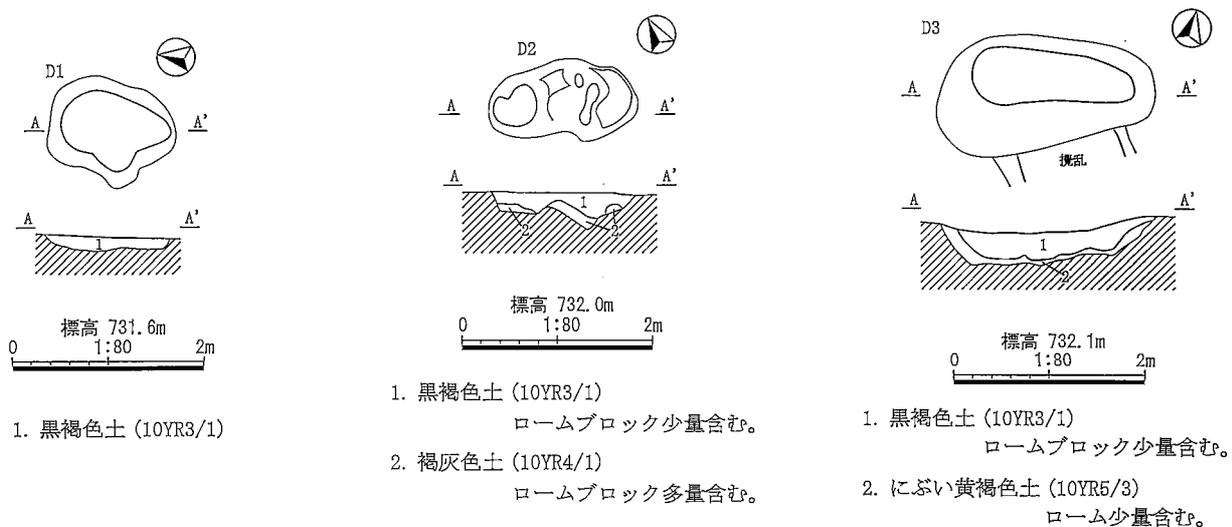
第28図 F14号掘立柱建物址遺構実測図

第3節 土坑

D1号土坑 調査区中央西側のIVIIグリッドに位置する。不整形を呈し長軸1.32m、短軸1.02m、深さ0.15m、主軸N-8°-Wを測る。削平されたためか、掘り込みは浅いが底面は平坦である。遺物は検出されなかった。

D2号土坑 調査区中央北側のEIV・FIVグリッドに位置する。楕円形を呈し長軸1.55m、短軸0.89m、深さ0.39m、主軸N-61°-Wを測る。底面は凹凸で、ロームブロックを含む人為的に埋め戻されたような堆積が認められる。遺物は検出されなかった。

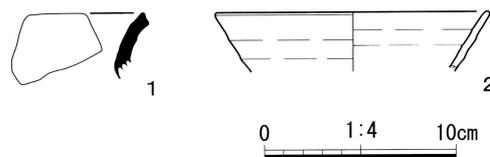
D3号土坑 調査区中央東側のDVグリッドに位置する。楕円形を呈し長軸2.27m、短軸1.19m、深さ0.39m、主軸N-70°-Eを測る。底面はほぼ平坦である。遺物は検出されなかった。



第29図 D1~3号土坑遺構実測図

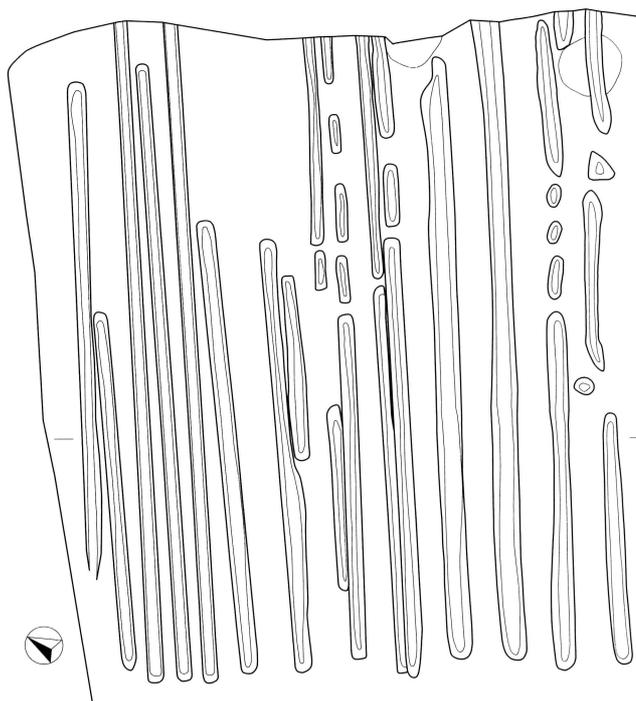
第4節 その他の遺構・遺物

ピット 本調査区では164基のピットが検出された。これらのピットは調査区全域に分布しているが、切り合い関係をもつものは少ない。平面形状は円形・楕円形・不整形等様々であるが、埋土は黒褐色ないし褐灰色を呈し、掘立柱建物址の柱穴埋土に類似する。ピットから出土した遺物はわずかであり、図化し得たのは第30図の2点のみである。1はP18出土の須恵器の甕である。2はP120出土の土師器の坏である。他のピット出土遺物も奈良・平安時代と考えられる須恵器・土師器片が主体であるため、本調査区において検出されたピットは、概ね奈良・平安時代の所産であると考えられる。

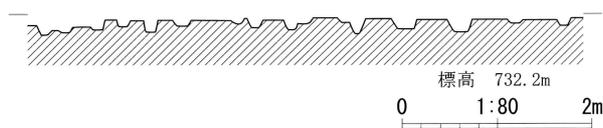


第30図 ピット出土遺物実測図

畝状遺構 調査区北東端のCI・II、DI・II・III、EI・II・IIIグリッドに位置し、東側が調査区外に延び、北側も調査区外に延びる可能性がある。F12を切る。16本の溝により構成され、掘り込みは4～16cm程度、等高線に直行するように並走している。遺物は出土しなかったが、本址の西端が地籍境界線と重なり、主軸が地籍や道路と平行していることから、新しい時期の畑跡と考えられる。



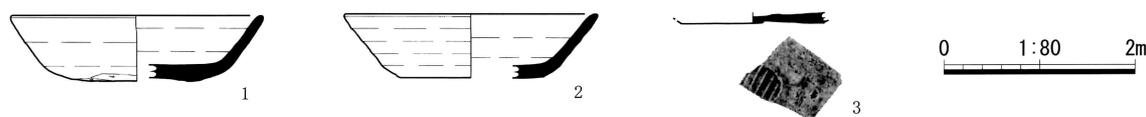
流路跡 調査区中央から北西、DVIグリッドからHX IIグリッドで検出され、H1号住居址や掘立柱建物址、ピットに切られる。地形の傾斜に沿って、北東から南西方向に伸び、埋土は黒褐色を呈し、深さは最深部で20cm程度である（図版7）。遺物は検出されなかったが、形状及び土層堆積状況から、奈良時代以前に埋没した自然流路跡と考えられる。



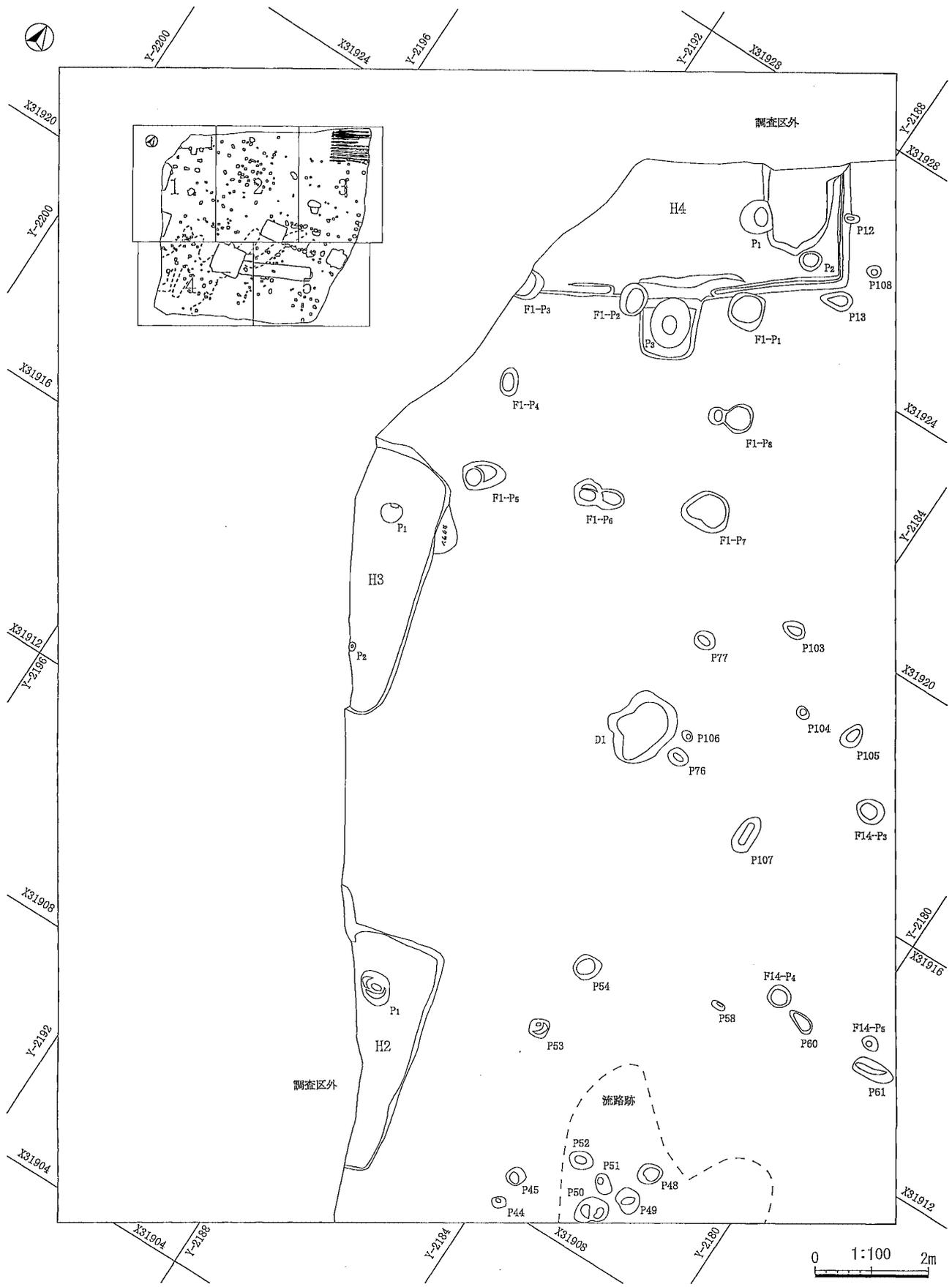
第31図 畝状遺構実測図

遺構外出土遺物 CVII～FXグリッドに位置し、H1号住居址を切る矩形の攪乱から、須恵器が出土している。いずれもH1号住居址と重なるFIXグリッドからの出土であるため、H1号住居址に伴う遺物である可能性が高い。

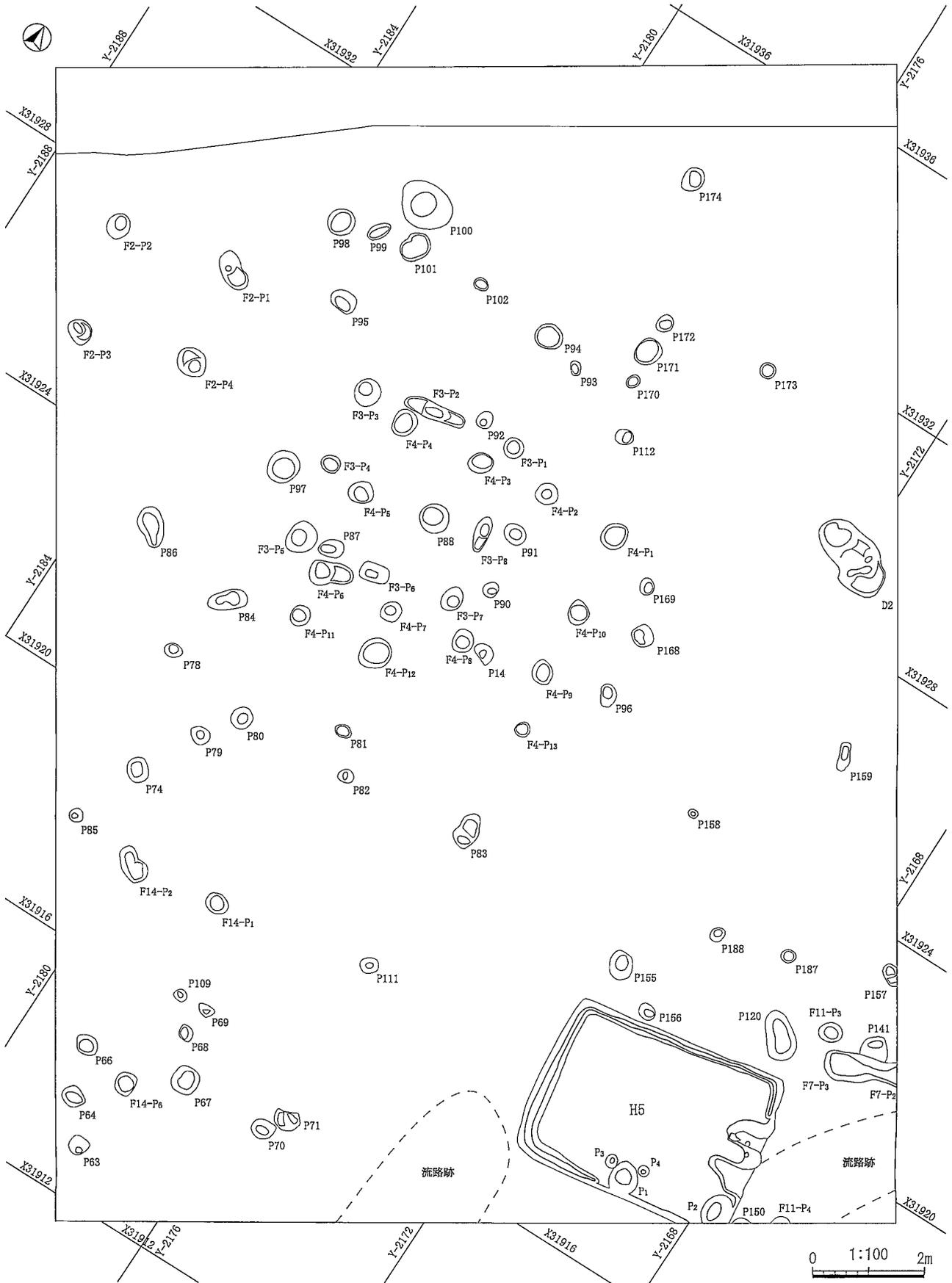
1～3はいずれも須恵器の坏である。1は底部回転糸切り後周囲にヘラケズリが施される。2は切り離し方法は不明だが底部全体にヘラケズリが施される。3は底部ヘラキリ後ナデが施されるが、中央に木目状の圧痕を留める。



第32図 遺構外出土遺物実測図



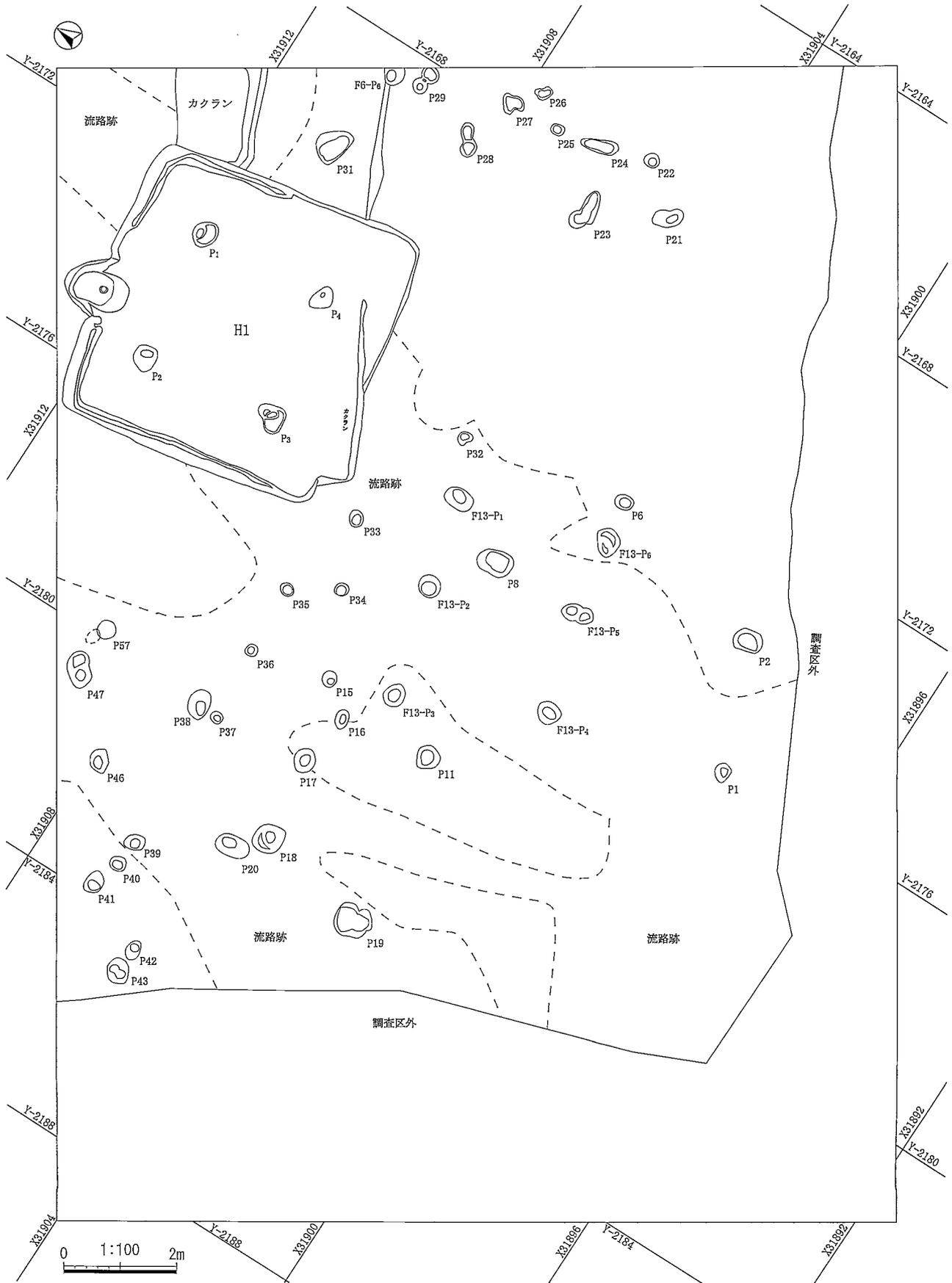
第33図 調査区分割図 1



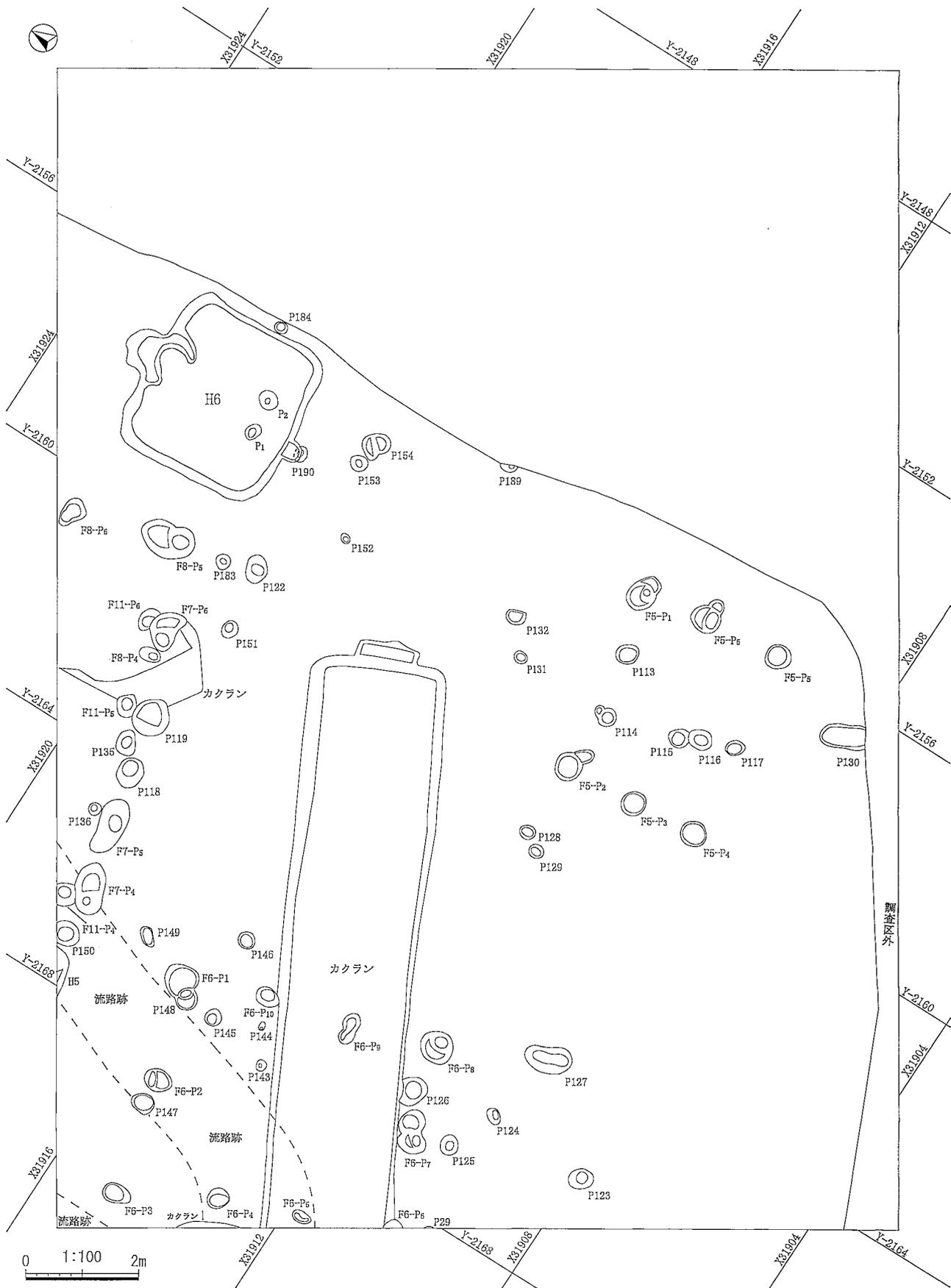
第34図 調査区分割図 2



第35図 調査区分割図 3



第36図 調査区分割図 4



第37図 調査区分割図5

第IV章 総括

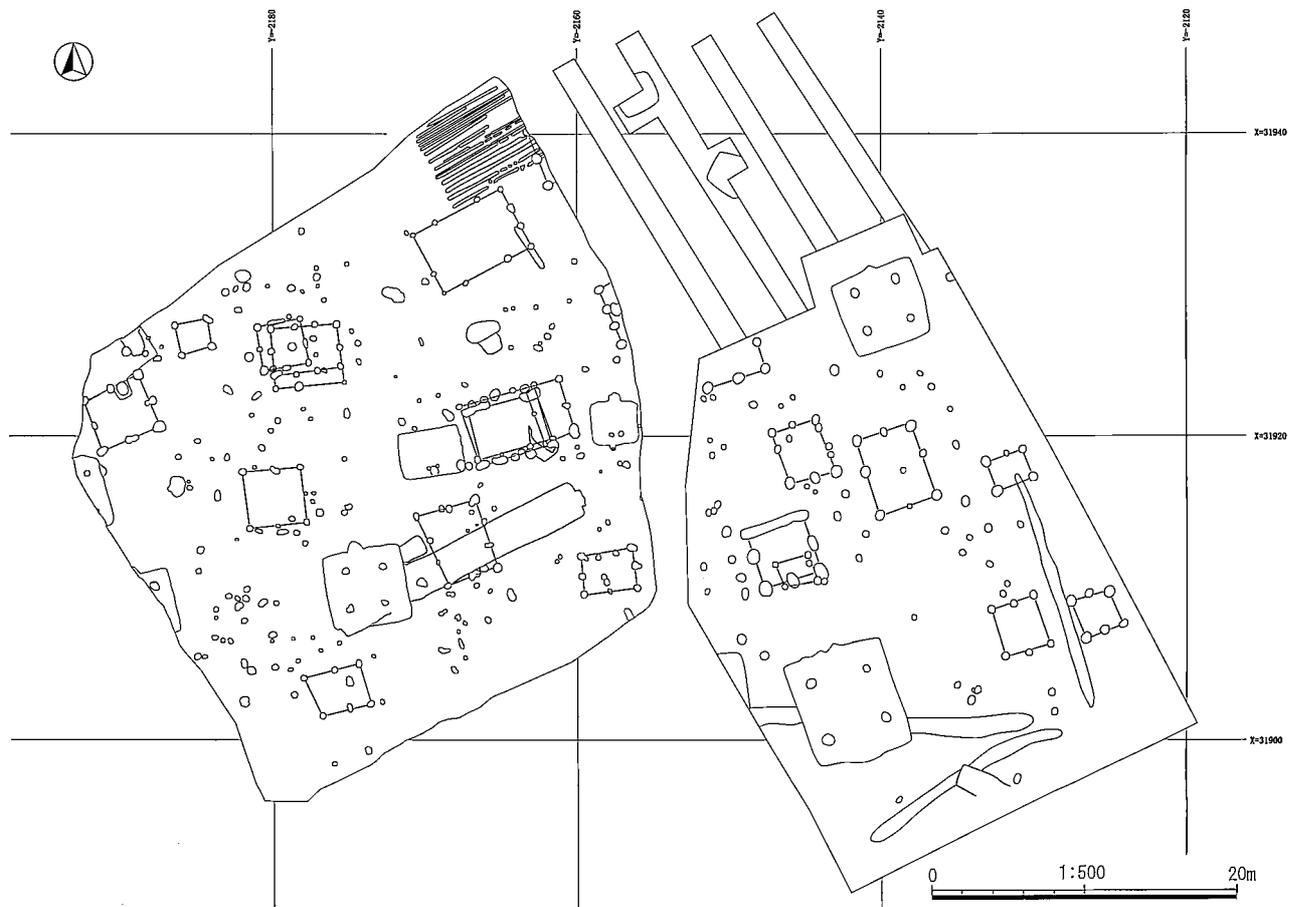
上聖端遺跡Ⅲが立地する田切り台地上では、東から聖原遺跡、上聖端遺跡、下聖端遺跡、上大林遺跡などが発掘調査され、古墳時代から平安時代の大規模集落が展開していたことがわかっている。

本調査区では、竪穴住居址6棟、掘立柱建物14棟、土坑3基、ピット164基、畝状遺構、流路跡などが検出された。竪穴住居址は6世紀中葉～7世紀初頭（H4）と8世紀第3四半期（H1・H2・H3・H5・H6）の2時期に区分できる。

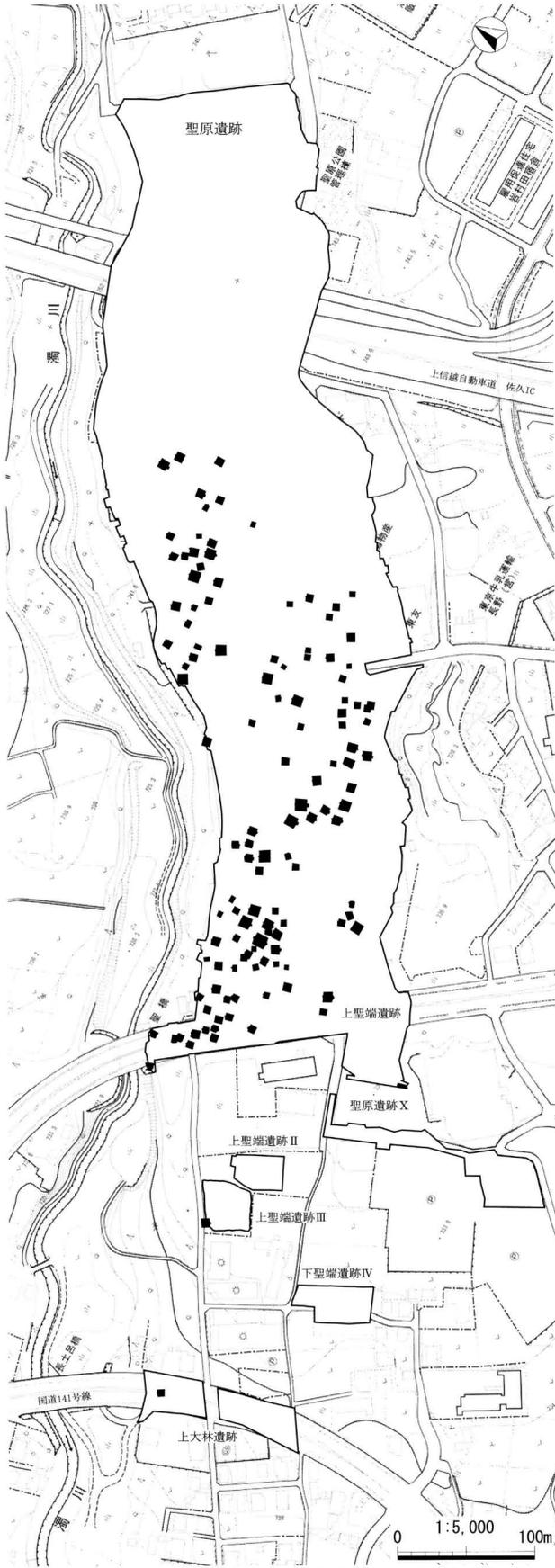
6世紀中葉～7世紀初頭、聖原遺跡や上聖端遺跡Ⅰにおいて多数の住居址が確認されている。この時期急速に集落が形成されることから、これらは自然発生的な集落ではなく、計画的に作られた集落と考えられる。本調査区ではH4号住居址が本期に該当する。聖原遺跡より西側の様相が不明確だが、本調査区から上大林遺跡にかけての台地縁辺部に、当該期住居址群が存在する可能性があり、出現期の集落が広範囲に及んでいたことが想定される。

7世紀から8世紀前半までの住居址は認められないが、8世紀後半に至り本調査区周辺が再び居住域となる。上聖端遺跡Ⅱでも同様の時期と考えられる住居址3軒が確認されており、建物の主軸が同一である。聖原遺跡で出土しているような官衙的な遺物は認められず、住居址の規模も比較的小規模である。このことから本期に拡張した集落の縁辺部であったと考えられる。

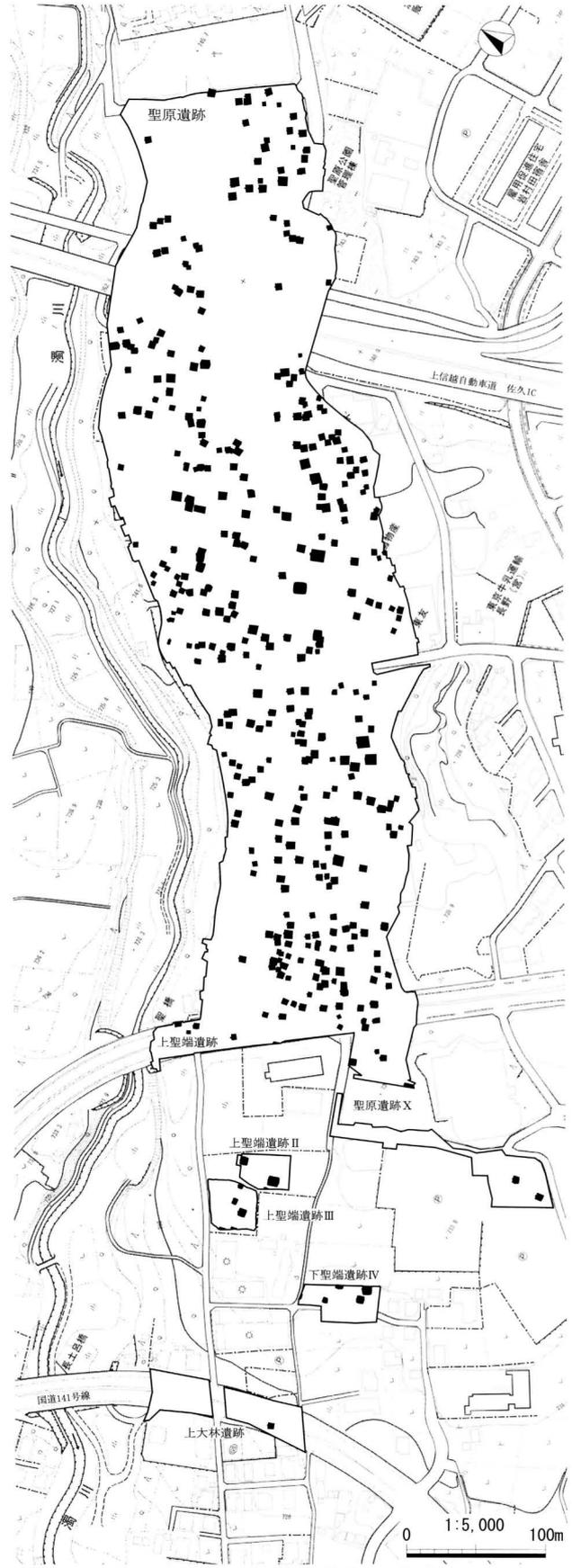
6世紀から12世紀の約600年間に亘り台地上に展開した集落内にあって、本調査区周辺が居住域として機能したのは限られた期間だけだったようである。今回の発掘調査で、集落の変遷を把握するうえで、貴重な成果が得られた。



第38図 上聖端遺跡Ⅱ・Ⅲ調査区全体図



第39図 6世紀中葉～7世紀初頭の住居址分布図



第40図 8世紀の住居址分布図

遺構名	グリッド	法量 (cm)			土層	備考
		長軸	短軸	深さ		
P1	GXII・FXII	35.8	29.2	14.0	10YR3/1 黒褐色土	
P2	FXII	53.1	38.6	15.0	10YR4/1 褐灰色土	
P6	FXI	35.2	27.5	14.0	10YR3/1 黒褐色土	
P8	FX・FXI	66.5	44.5	20.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P11	GXI	45.6	43.1	20.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P12	IV・JV	27.4	15.8	12.0	10YR3/1 黒褐色土	H4を切る
P13	IV	57.8	31.7	17.0	10YR4/1 褐灰色土	
P14	GV	38.3	27.1	23.0	10YR2/1 黒色土	
P15	GX	29.9	26.5	13.0	10YR3/1 黒褐色土	
P16	GX	36.3	23.2	16.0	10YR3/1 黒褐色土	
P17	GX・HX	45.9	39.3	28.0	10YR3/1 黒褐色土	
P18	HX	62.4	53.3	27.0	10YR3/1 黒褐色土	
P19	HXI	68.6	60.4	8.0	10YR4/1 褐灰色土	
P20	HX	62.2	38.2	30.0	10YR3/1 黒褐色土	
P21	DX・EX	57.3	29.1	14.0	10YR3/1 黒褐色土	
P22	DX	28.5	26.0	8.0	10YR4/1 褐灰色土	
P23	EX	77.9	30.2	13.0	10YR4/1 褐灰色土	
P24	DX	69.2	23.3	17.0	10YR3/1 黒褐色土	
P25	DX	24.6	20.2	4.0	10YR4/1 褐灰色土	
P26	DX	28.5	19.6	8.0	10YR4/1 褐灰色土	
P27	DX・DX	37.4	25.0	9.0	10YR4/1 褐灰色土	
P28	EIX	62.4	29.9	7.0	10YR3/1 黒褐色土	
P29	EIX	56.5	32.4	7.0	10YR4/1 褐灰色土	
P31	EIX	70.3	48.4	10.0	10YR3/1 黒褐色土	
P32	FX	27.7	20.0	14.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P33	FX	31.0	25.0	16.0	10YR3/1 黒褐色土	
P34	GX	24.5	24.4	7.0	10YR3/1 黒褐色土	
P35	GX	26.9	22.8	10.0	10YR3/1 黒褐色土	
P36	GX	22.6	21.8	14.0	10YR3/1 黒褐色土	
P37	GX・HX	22.6	20.8	8.0	10YR3/1 黒褐色土	
P38	GX・HX	52.1	39.1	13.0	10YR3/1 黒褐色土	
P39	HX	37.2	28.4	14.0	10YR3/1 黒褐色土	
P40	HX	29.7	27.5	6.0	10YR4/1 褐灰色土	
P41	HX	41.6	31.1	12.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P42	IX	37.5	25.1	26.0	10YR3/1 黒褐色土	
P43	IX	44.9	43.5	30.0	10YR3/1 黒褐色土	
P44	HIX・HX	25.2	20.8	9.0	10YR4/1 褐灰色土	
P45	HIX	34.3	31.0	15.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P46	HIX・HX	43.8	32.9	25.0	10YR3/1 黒褐色土	
P47	HIX	63.3	39.2	17.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P48	HIX	46.1	37.4	10.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P49	HIX	49.1	39.8	17.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P50	HIX	57.5	43.5	43.0	1.10YR3/1 黒褐色土 2.10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P51	HIX	39.6	25.8	14.0	10YR3/1 黒褐色土	
P52	HIX	40.2	34.5	24.0	10YR3/1 黒褐色土 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P53	IIX	34.4	34.0	14.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P54	VIII	45.3	44.8	15.0	10YR3/1 黒褐色土	
P57	GIX・HIX	34.6	33.0	20.0	10YR3/1 黒褐色土	

第1表 ピット計測表1

遺構名	グリッド	法量 (cm)			土層	備考
		長軸	短軸	深さ		
P58	HVIII	26.1	13.2	7.0	10YR3/1 黒褐色土	
P60	HVIII	52.2	24.2	12.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P61	GVIII	73.7	33.0	6.0	10YR3/1 黒褐色土	
P63	GVIII	33.2	32.7	13.0	10YR4/1 褐灰色土	
P64	GVIII	38.9	34.9	14.0	10YR3/1 黒褐色土	
P66	GVIII	43.4	35.0	10.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P67	GVIII	48.7	46.9	16.0	10YR3/1 黒褐色土	
P68	GVIII	24.8	24.7	7.0	10YR3/1 黒褐色土	
P69	GVII	29.2	19.4	10.0	10YR3/1 黒褐色土	
P70	FVII	40.3	35.3	10.0	10YR3/1 黒褐色土	
P71	FVII	45.0	34.4	24.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P74	HVII	45.0	36.9	14.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P76	IVI	38.0	29.9	22.0	10YR3/1 黒褐色土	
P77	IVI	38.7	33.4	16.0	10YR3/1 黒褐色土	
P78	HVI	32.3	25.2	10.0	10YR3/1 黒褐色土	
P79	GVI・HVI	36.7	29.8	13.0	10YR4/1 褐灰色土	
P80	GVI	40.8	37.4	17.0	10YR3/1 黒褐色土	
P81	GVI	30.9	23.5	14.0	10YR3/1 黒褐色土	
P82	GVI	28.6	24.1	15.0	10YR3/1 黒褐色土	
P83	FVI	64.5	39.1	34.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P84	HVI	70.8	34.2	30.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P85	HVII	25.7	24.8	10.0	10YR3/1 黒褐色土	
P86	HVI	74.2	41.7	8.0	10YR4/1 褐灰色土	
P87	GV	45.5	31.7	13.0	10YR4/1 褐灰色土	
P88	GV	53.8	52.9	30.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P90	GV	28.9	25.9	29.0	10YR3/1 黒褐色土	
P91	GV	41.2	34.6	27.0	10YR3/1 黒褐色土	
P92	GIV・GV	31.8	27.4	13.0	10YR4/1 褐灰色土	
P93	GIV	26.8	17.7	8.0	10YR4/1 褐灰色土	
P94	GIV	50.4	45.4	29.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P95	HIV	48.2	35.0	28.0	10YR3/1 黒褐色土	
P96	FV	41.4	28.0	26.0	10YR3/1 黒褐色土	
P97	HV	60.6	54.6	30.0	10YR3/1 黒褐色土	
P98	HIV	50.2	48.2	23.0	10YR4/1 褐灰色土	
P99	HIV	44.9	24.6	6.0	10YR4/1 褐灰色土	
P100	HIV	101.7	81.3	19.0	10YR3/1 黒褐色土	
P101	HIV	55.9	46.5	16.0	10YR4/1 褐灰色土	
P102	HIV	26.8	21.1	25.0	10YR3/1 黒褐色土	
P103	IVI	43.3	30.3	9.0	10YR4/1 褐灰色土	
P104	HVII	24.9	20.7	10.0	10YR3/1 黒褐色土	
P105	HVII	47.1	31.7	7.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P106	IVI	21.7	16.8	14.0	10YR3/1 黒褐色土	
P107	HVII・HVIII	72.9	35.6	13.0	10YR3/1 黒褐色土	
P108	IV	24.9	23.0	11.0	10YR4/1 褐灰色土	
P109	GVII	23.5	20.2	20.0	10YR3/1 黒褐色土	
P111	FVII	33.2	27.7	10.0	10YR4/1 褐灰色土	
P112	GIV	32.7	28.3	10.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P113	BVIII	41.0	34.7	10.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P114	BVIII・BIX	43.3	34.9	14.0	1.10YR3/1 黒褐色土	
					2.10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	

第2表 ピット計測表2

遺構名	グリッド	法量 (cm)			土層	備考
		長軸	短軸	深さ		
P115	BIX	36.9	35.8	25.0	10YR3/1 黒褐色土	P116に切られる
P116	BIX	41.9	37.2	32.0	10YR3/1 黒褐色土	P115を切る
P117	BIX	36.6	26.6	13.0	10YR3/1 黒褐色土	
P118	CVII・DVII	55.7	45.3	8.0	10YR3/1 黒褐色土	
P119	CVII	71.0	64.5	14.0	1.10YR3/1 黒褐色土	F11-P5を切る
					2.10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P120	EVI	90.6	47.9	24.0	1.10YR3/1 黒褐色土	
					2.10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P121	DVI	52.1	41.5	27.0	1.10YR3/3 暗褐色土	F7-P2を切る
					2.10YR3/1 黒褐色土ロームブロック少量含む	
					3.10YR3/1 黒褐色土ローム多量含む	
P122	BVII	52.1	38.4	23.0	10YR3/1 黒褐色土	
P123	DVI・DX	45.1	37.1	25.0	1.10YR3/1 黒褐色土	
					2.10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P124	DIX	32.1	21.7	12.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P125	DIX	38.2	31.8	7.0	10YR3/1 黒褐色土	
P126	DIX	(44.17)	51.0	13.0	10YR3/1 黒褐色土	カクランに切られる
P127	DIX	86.7	46.7	20.0	1.10YR3/1 黒褐色土	
					2.10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P128	CVIII・CIX	29.1	25.7	13.0	10YR3/1 黒褐色土	
P129	CIX	27.7	25.2	6.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P130	BIX・BX	(80.78)	42.9	8.0	10YR3/1 黒褐色土	南側調査区外
P131	BVIII	25.1	21.2	7.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P132	BVIII	35.8	26.5	8.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P135	CVII	45.3	34.1	17.0	10YR3/1 黒褐色土	
P136	DVII	23.5	21.8	5.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P140	DVI	74.9	53.1	17.0	1.10YR3/1 黒褐色土	
					2.10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P141	DVI	(39.13)	49.1	37.0	1.10YR3/1 黒褐色土	F7-P2・P3に切られる
					2.10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P143	DVIII	20.3	18.5	8.0	10YR3/1 黒褐色土	
P144	DVIII	16.6	10.7	6.0	10YR3/1 黒褐色土	
P145	DVIII	31.2	29.7	7.0	10YR3/1 黒褐色土	
P146	DVIII	32.0	30.7	9.0	10YR3/1 黒褐色土	
P147	EVIII	42.0	33.9	15.0	1.10YR3/1 黒褐色土	
					2.10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P148	DVIII	39.8	(18.91)	24.0	1.10YR3/1 黒褐色土	F6-P1に切られる
					2.10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P149	DVII	36.4	21.1	14.0	10YR3/1 黒褐色土	
P150	DVII	51.4	44.0	17.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P151	CVII	33.3	28.5	20.0	10YR3/1 黒褐色土	
P152	BVII	20.0	15.7	5.0	10YR4/1 褐灰色土	
P153	BVII	32.0	28.7	12.0	10YR3/1 黒褐色土	
P154	BVII	51.3	44.3	18.0	10YR3/1 黒褐色土	
P155	EVI	53.0	41.6	25.0	10YR3/1 黒褐色土	
P156	EVI	31.5	26.6	12.0	10YR3/1 黒褐色土	
P157	DVI	42.9	27.6	14.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P158	EV・EVI・FV・FVI	17.7	15.1	5.0	10YR3/1 黒褐色土	
P159	EV	52.4	1917.0	9.0	10YR3/1 黒褐色土	
P160	BV	45.2	33.8	27.0	10YR3/1 黒褐色土	

第3表 ピット計測表3

遺構名	グリッド	法量 (cm)			土層	備考
		長軸	短軸	深さ		
P161	BV	44.4	40.6	25.0	10YR3/1 黒褐色土	
P162	DV	30.2	26.8	8.0	10YR3/1 黒褐色土	
P163	CV	52.1	35.2	14.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P164	CV	24.9	23.6	10.0	10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P165	CV	43.1	40.3	12.0	10YR3/1 黒褐色土	
P166	CV	40.2	28.6	10.0	10YR3/1 黒褐色土	
P167	CIV	28.2	25.2	10.0	10YR3/1 黒褐色土	
P168	FV	38.8	37.0	36.0	10YR3/1 黒褐色土	
P169	FV	30.8	25.5	30.0	10YR3/1 黒褐色土	
P170	GIV	25.7	21.9	11.0	10YR3/1 黒褐色土	
P171	GIV	50.1	43.3	11.0	10YR3/1 黒褐色土	
P172	GIV	33.1	28.1	20.0	10YR3/1 黒褐色土	
P173	FIV	28.1	28.1	11.0	1.10YR3/1 黒褐色土	
					2.10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P174	GIII	45.2	36.3	20.0	1.10YR3/1 黒褐色土	
					2.10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む	
P175	DIV	29.0	23.0	12.0	10YR3/1 黒褐色土	
P176	DIV	22.6	21.4	10.0	10YR3/1 黒褐色土	
P177	BIV・CIV	37.0	35.1	20.0	10YR3/1 黒褐色土	
P181	EIV	48.6	36.6	10.0	10YR3/1 黒褐色土	
P182	EIII	33.2	23.4	10.0	10YR4/1 褐灰色土	
P183	BVII・CVII	28.3	26.9	27.0	10YR3/1 黒褐色土	
P184	AVI	23.8	20.1	9.0	10YR3/1 黒褐色土	
P185	CIV	29.0	27.8	8.0	10YR3/1 黒褐色土	
P186	BIV	87.2	(69.96)	10.0	10YR3/1 黒褐色土	F9-P2を切る・東側調査区外
P187	EVI	26.9	24.1	10.0	10YR4/1 褐灰色土	
P188	EVI	29.2	23.9	7.0	10YR3/1 黒褐色土	
P189	AVI・AVII	(31.75)	(12.63)	17.0	10YR3/1 黒褐色土	東側調査区外
P190	BVII	29.1	(22.44)	24.2	10YR3/2 黒褐色土 ローム少量含む	H6に切られる

第4表 ピット計測表4

遺構	No	器種	器形	法量			成形・調整	
				口径	底径	器高	内面	外面
H1	1	須恵器	坏	13.5	7.7	3.6	ロクロナデ・火摺痕	ロクロナデ・底部回転糸切り
	2	須恵器	坏	(12.8)	(6.4)	(3.4)	ロクロナデ	ロクロナデ
	3	須恵器	坏	(12.6)	-	(3.0)	ロクロナデ	ロクロナデ
	4	須恵器	有台坏	13.1	9.3	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ・底部回転糸切り後周辺部ヘラケズリ・高台貼り付け
	5	須恵器	坏蓋	-	-	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ・天井部回転ヘラケズリ
	6	土師器	坏	-	-	(4.0)	暗文	口縁ヨコナデ・ヘラケズリ
	7	土師器	坏	(14.4)	8.1	5.4	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ・底部手持ちヘラケズリ
	8	土師器	甕	(25.6)	-	(8.7)	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ
	9	土師器	甕	(21.0)	-	(20.6)	ヘラナデ	ヘラケズリ
	10	土師器	甕	(19.6)	-	(10.0)	ヘラナデ	ヘラケズリ
	11	土師器	甕	(20.2)	-	(7.1)	ヘラナデ	ヘラケズリ
	12	土師器	甕	(21.0)	-	(14.0)	ヘラナデ	ヘラケズリ
	13	土師器	甕	-	(5.2)	(6.9)	ヘラナデ	ヘラケズリ
	14	土師器	甕	-	-	(7.4)	ヘラナデ	ヘラケズリ
	15	土師器	甕	-	-	(12.0)	ヘラナデ	ヘラケズリ

第5表 遺物観察表1

遺構	No	器種	器形	法量			成形・調整	
				口径	底径	器高	内面	外面
H2	1	須恵器	坏	(14.0)	(8.4)	3.4	ロクロナデ・火襷痕	ロクロナデ・火襷痕・ 底部手持ちヘラケズリ
	2	須恵器	有台坏	(17.2)	(9.6)	6.7	ロクロナデ	ロクロナデ・高台貼付
	3	須恵器	壺	(17.0)	-	(2.8)	ロクロナデ	ロクロナデ
	4	土師器	坏	(15.4)	6.4	5.8	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ・底部手持ちヘラケズリ
	5	土師器	坏	(14.3)	(7.0)	3.8	ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラケズリ
	6	土師器	壺	(12.8)	-	(6.6)	ヘラナデ	ヘラケズリ
	7	土師器	甕	(22.2)	-	(9.3)	ヘラナデ	ヘラケズリ・口縁ヨコナデ
	8	土師器	甕	(23.0)	-	(7.6)	ヘラナデ	ヘラケズリ
H3	1	須恵器	蓋	(18.2)	-	(1.6)	ロクロナデ	ロクロナデ
	2	須恵器	甕	-	-	(7.3)	ロクロナデ	平行タタキ
	3	土師器	甕	-	(5.0)	(4.5)	ヘラナデ	ヘラケズリ
	4	土師器	甕	-	(4.0)	(6.6)	ヘラナデ	ヘラケズリ
H4	1	土師器	坏	15.2	10.5	5.5	ヘラミガキ	口縁ヨコナデ・底部ナデ・ヘラケズリ
	2	土師器	坏	(13.8)	(13.0)	(3.9)	ヘラミガキ	ヘラミガキ
	3	土師器	坏	-	8.4	(4.1)	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ
	4	土師器	高坏	-	14.3	(14.4)	坏部ヘラミガキ・黒色処理、 脚部ヨコナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ
	5	土師器	壺	-	(8.4)	(7.9)	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ
	7	縄文土器	深鉢	-	-	(8.2)	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヘラケズリ・ヘラミガキ
H5	1	須恵器	坏	(13.8)	(8.0)	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ・底部ヘラケズリ
	2	須恵器	蓋	(12.2)	-	(1.1)	ロクロナデ	ロクロナデ・天井部回転ヘラケズリ
	3	須恵器	甕	-	-	(3.3)	ロクロナデ	ロクロナデ・櫛描波状文
	4	土師器	甕	-	-	(7.3)	ヘラナデ	ヘラケズリ
	5	灰釉陶器		-	(4.2)	(0.9)	ロクロナデ・施釉	ロクロナデ・施釉・底部回転ヘラケズリ
H6	1	須恵器	坏	(14.4)	(5.8)	(3.6)	ロクロナデ・火襷痕	ロクロナデ・火襷痕・底部回転糸切り・ 体部下端ヘラケズリ
	2	須恵器	蓋	(16.4)	-	(1.8)	ロクロナデ	ロクロナデ・天井部回転ヘラケズリ
	3	須恵器	甕	(26.2)	-	(5.5)	ロクロナデ	ロクロナデ
	4	須恵器	甕	-	-	(5.7)	ロクロナデ	ロクロナデ・平行タタキ
	5	須恵器	甕	-	-	(7.5)	当具痕・ナデ	平行タタキ
	6	須恵器	壺	-	-	(1.9)	ロクロナデ	ロクロナデ・刺突文
	8	土師器	甕	(23.6)	-	(30.6)	ハケ	ヘラケズリ
	7	土師器	甕	(22.0)	-	(21.8)	ロクロナデ・ハケ	ロクロナデ・ヘラケズリ
	9	土師器	甕	(20.0)	-	(11.1)	ヘラナデ	ヘラケズリ
	10	土師器	甕	20.9	-	(11.2)	ヘラナデ	ヘラケズリ
	11	土師器	甕	(21.0)	-	(9.3)	ヘラナデ	ヘラケズリ
	12	土師器	甕	(22.0)	-	(7.9)	ヘラナデ	ヘラケズリ
	13	土師器	甕	(20.8)	-	(12.6)	ヘラナデ	ヘラケズリ
	14	土師器	甕	-	(3.8)	(11.6)	ヘラナデ	ヘラケズリ
	15	土師器	羽釜	(22.0)	-	(17.5)	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ

第6表 遺物観察表2

遺構	No	器種	器形	法量			成形・調整	
				口径	底径	器高	内面	外面
P18	1	須恵器	甕	-	-	(3.5)	ロクロナデ	ロクロナデ
P120	2	土師器	坏	(14.4)	-	(3.2)	ロクロナデ	ロクロナデ
カクラン	1	須恵器	坏	(13.2)	(6.6)	(3.6)	ロクロナデ・火襷痕	ロクロナデ・火襷痕・底部回転糸切り・外周手持ちヘラケズリ ロクロナデ・
	2	須恵器	坏	(13.4)	(7.8)	(3.5)	ロクロナデ	底部手持ちヘラケズリ
	3	須恵器	坏	-	(7.6)	(0.6)	ロクロナデ	ロクロナデ

第7表 遺物観察表3

遺構	No	器種	器形	法量				石材	備考
				長さ	幅	厚さ	重量		
H1	16	石器	打製石斧	(12.7)	(6.6)	2.1	(217.9)	安山岩	刃部欠損、自然面残る
	17	鉄製品	鎌	13.0	3.6	0.6	24.4	-	鎌身五角形、ほぼ完形
	18	鉄製品	刀子?	(9.8)	1.9	0.4	(13.2)	-	両端欠損
H2	9	石器	磨石	5.8	3.8	3.4	110.4	安山岩	全体に磨痕、上端部は敲打痕か
	10	石器	軽石製品	5.8	3.3	2.4	36.5	軽石	全体に磨痕
H4	6	石器	敲石	7.9	6.3	4.2	260.5	花崗岩	正面と縁辺に敲打痕 (正面の傷はガジリ)
H5	6	石器	支脚石	25.6	9.6	10.5	671.0	軽石	加工痕あり
	7	石器	軽石製品	(6.8)	4.7	2.5	(31.9)	軽石	下部欠損、全体に磨痕
	8	石器	軽石製品	9.0	5.9	3.8	117.1	軽石	全体に磨痕
	9	石器	石鎌	(2.6)	1.4	0.5	(1.3)	頁岩	先端一部欠損
H6	16	鉄製品	刀子	(7.9)	1.0	(0.3)	(5.1)	-	茎部欠損
	17	石器	砥石	(8.6)	(5.0)	(3.8)	(168.9)	砂岩	上部欠損、砥面数6、下側2面に条痕
F5-P5	1	鉄製品	不明	(6.4)	(0.8)	(0.4)	(4.4)	-	片端欠損

第8表 遺物観察表4

参考文献

- 佐久市教育委員会 1992 『国道141号線関係遺跡』
- 佐久市教育委員会 1993 『長土呂遺跡群 上聖端遺跡』
- 佐久市教育委員会 1997 『長土呂遺跡群 聖原遺跡X』
- 佐久市教育委員会 2000 『長土呂遺跡群 下聖端遺跡IV』
- 佐久市教育委員会 2001 『下曾根遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ 上芝宮遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅵ』
- 佐久市教育委員会 2005 『長土呂遺跡群 聖原』 第5分冊
- 佐久市教育委員会 2012 『長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ』
- 財団法人長野県埋蔵文化財センター 1991 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書2
佐久市内その2』
- 財団法人長野県埋蔵文化財センター 1999 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書17
佐久市内その3・小諸市内その1』



調査区西側完掘状況（南から）



調査区西側完掘状況（北から）



調査区東側完掘状況（南から）



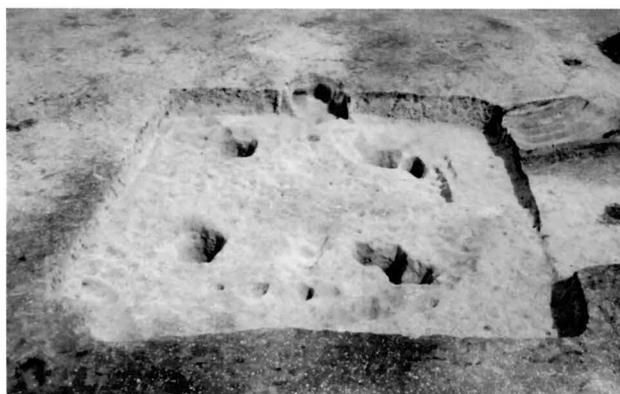
調査区東側完掘状況（北から）



H1号住居址完掘（南から）



H1号住居址カマド完掘（南から）



H1号住居址掘方完掘（南から）



H1号住居址カマド掘方完掘（南から）



H2号住居址完掘（南から）



H2号住居址カマドセクション（南から）



H2号住居址掘方完掘（南から）



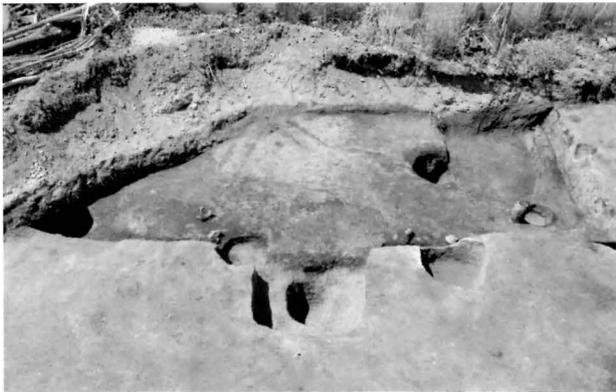
H2号住居址P1セクション（東から）



H3号住居址完掘（東から）



H3号住居址掘方完掘（東から）



H4号住居址完掘（南から）



H4号住居址掘方完掘（南から）



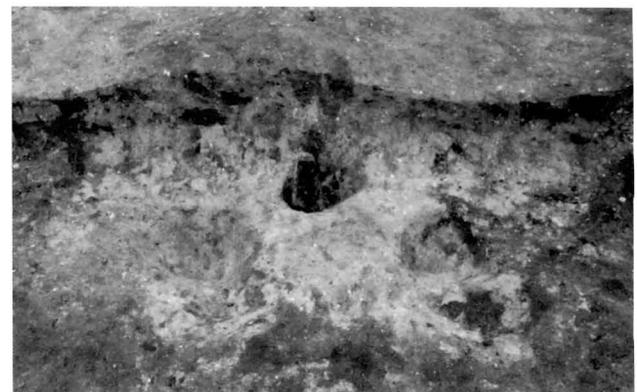
H5号住居址完掘（南から）



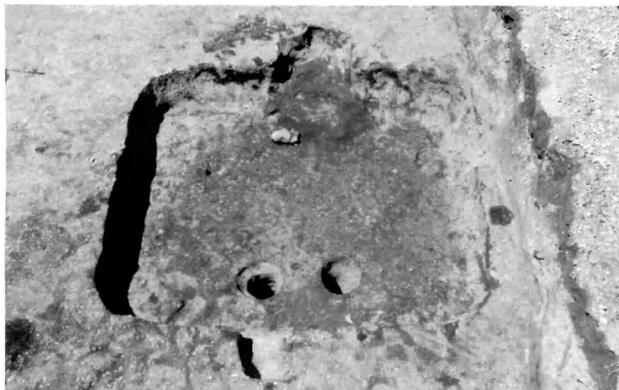
H5号住居址カマド完掘（西から）



H5号住居址掘方完掘（南から）



H5号住居址カマド掘方完掘（西から）



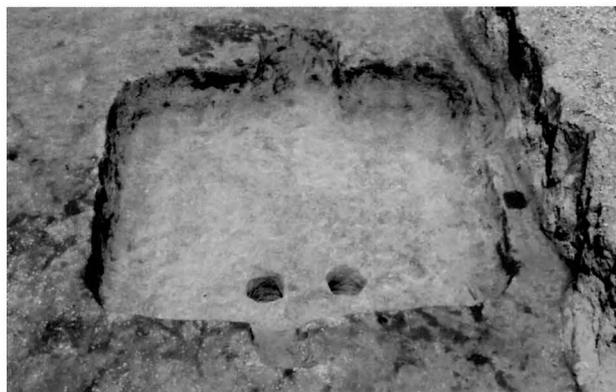
H6号住居址完掘（南から）



H6号住居址カマド周辺遺物（南から）



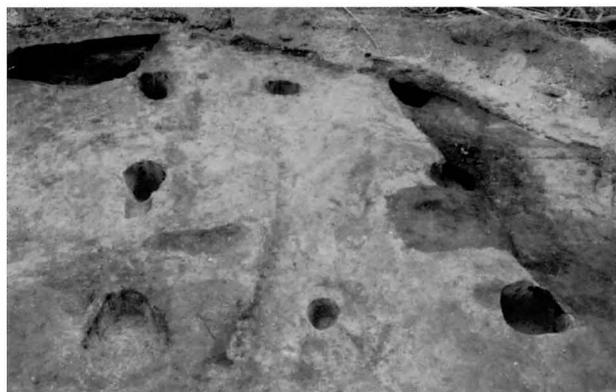
H6号住居址カマド完掘（南から）



H6号住居址掘方完掘（南から）



H6号住居址カマド掘方完掘（南から）



F1号掘立柱建物址完掘（東から）



F2号掘立柱建物址完掘（南から）



F3号掘立柱建物址完掘（東から）



F4号掘立柱建物址完掘（東から）



F3・F4号掘立柱建物址完掘（東から）



F5号掘立柱建物址完掘（南から）



F6号掘立柱建物址完掘（北から）



F7号掘立柱建物址完掘（東から）



F8号掘立柱建物址完掘（東から）



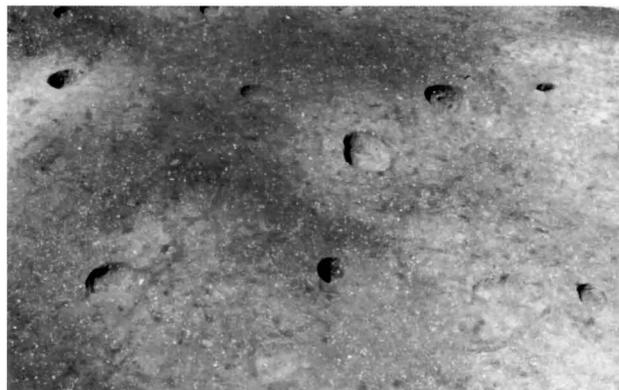
F9号掘立柱建物址完掘（北から）



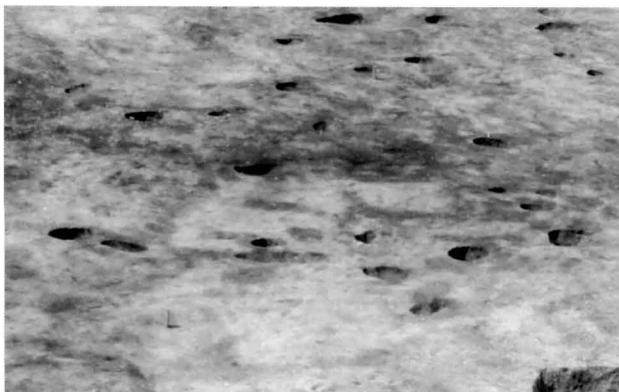
F10号掘立柱建物址完掘（東から）



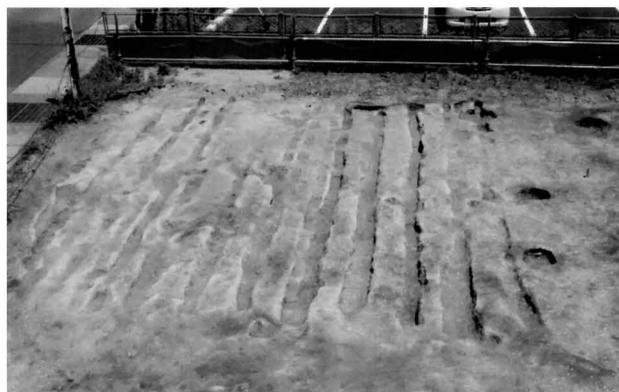
F11号掘立柱建物址完掘 (南から)



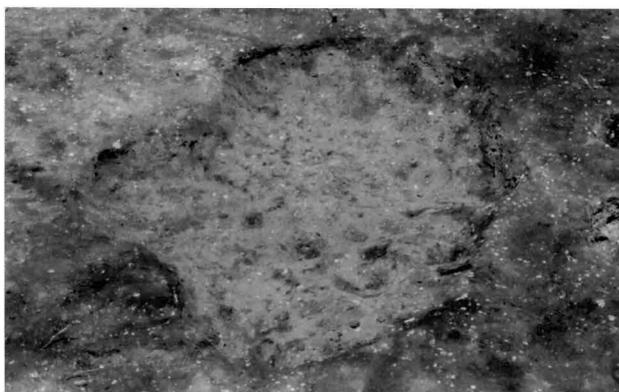
F13号掘立柱建物址完掘 (南から)



F14号掘立柱建物址完掘 (南から)



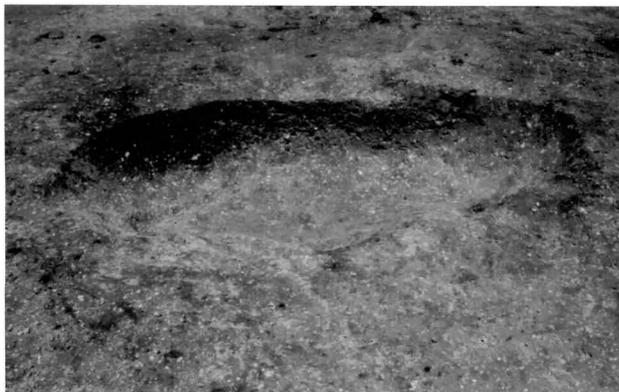
F12号掘立柱建物址・畝状遺構完掘 (西から)



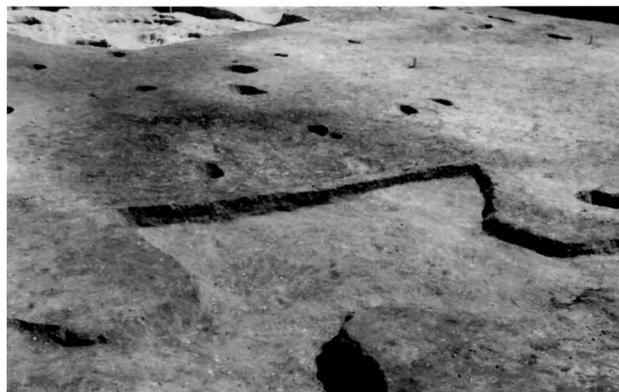
D1号土坑完掘 (南から)



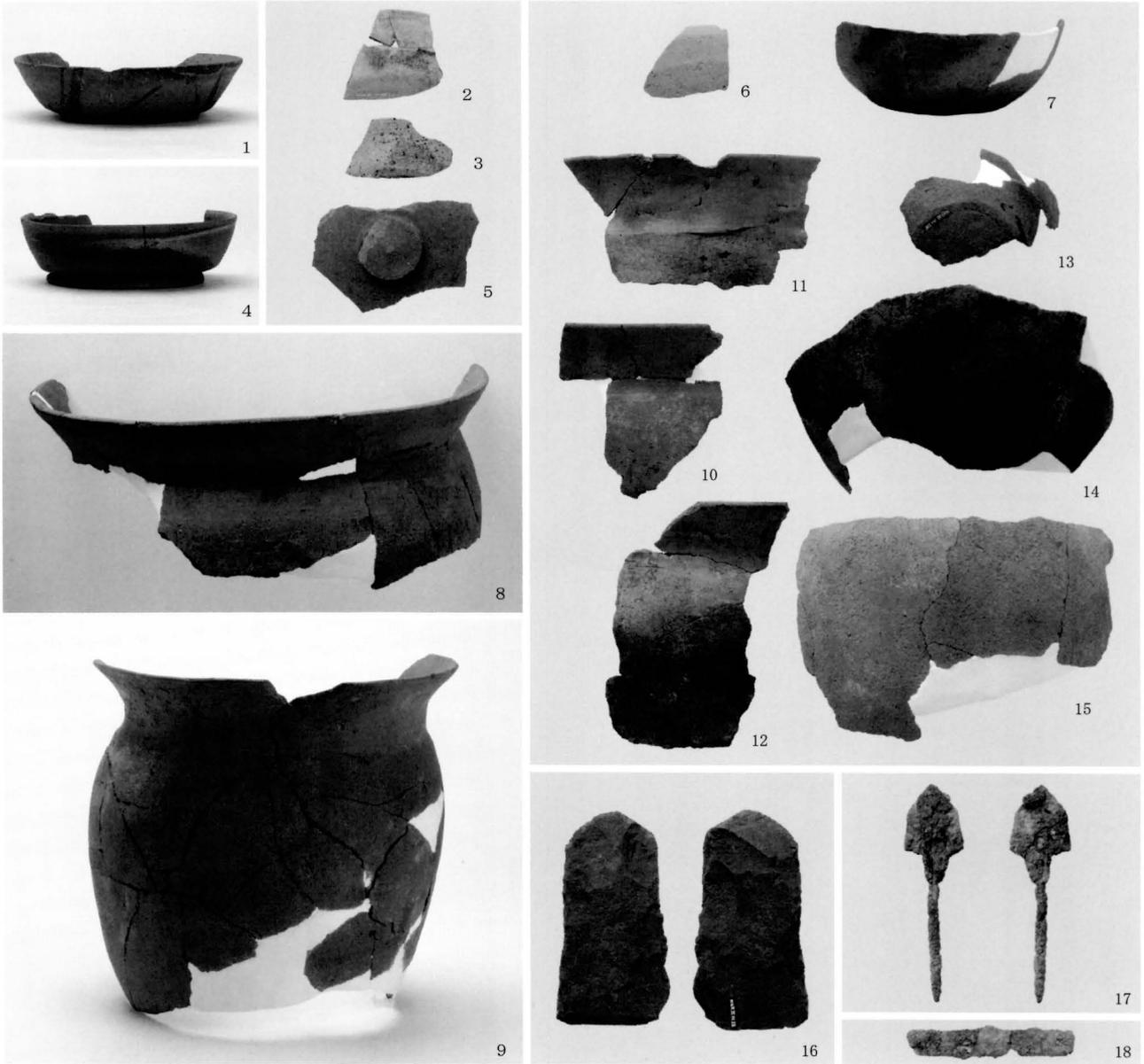
D2号土坑完掘 (南西から)



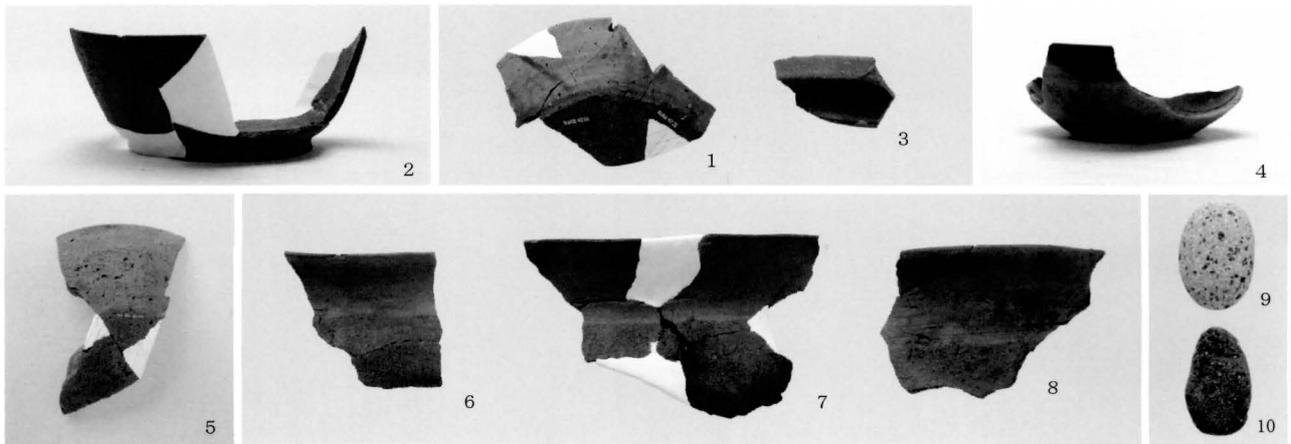
D3号土坑完掘 (南から)



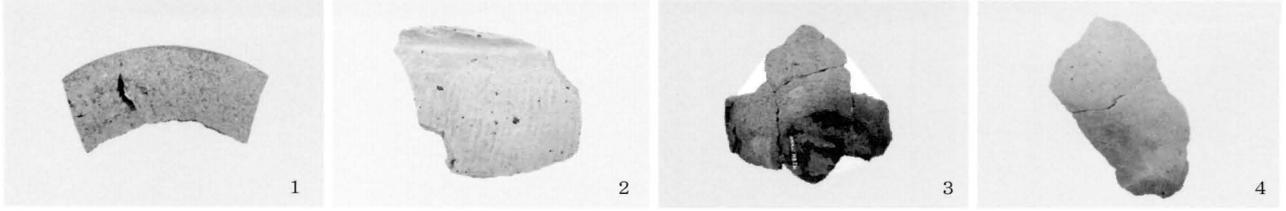
流路跡セクション (南から)



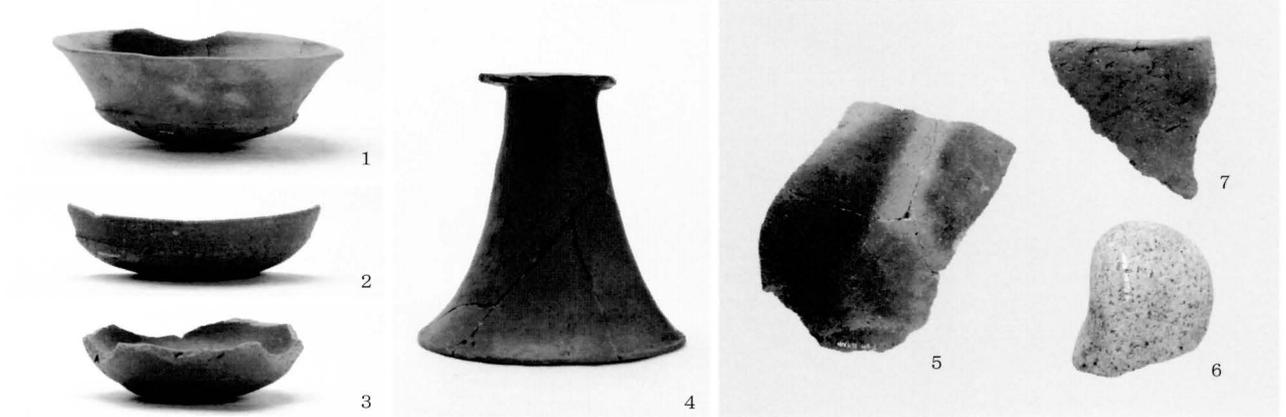
H1 号住居址出土遺物



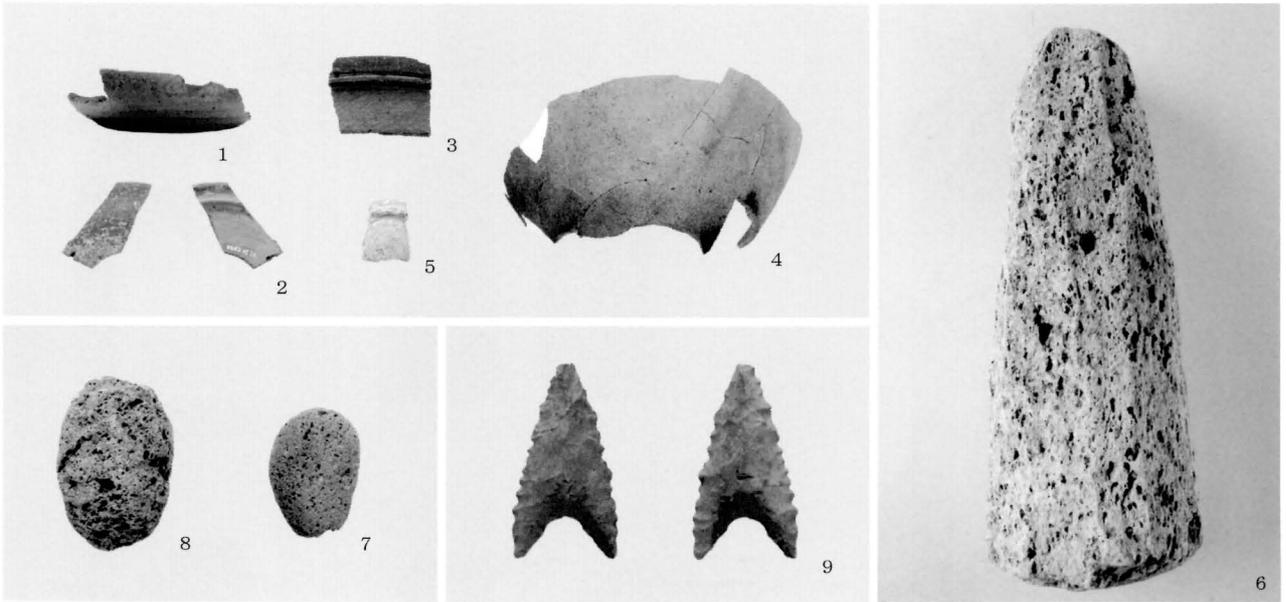
H2 号住居址出土遺物



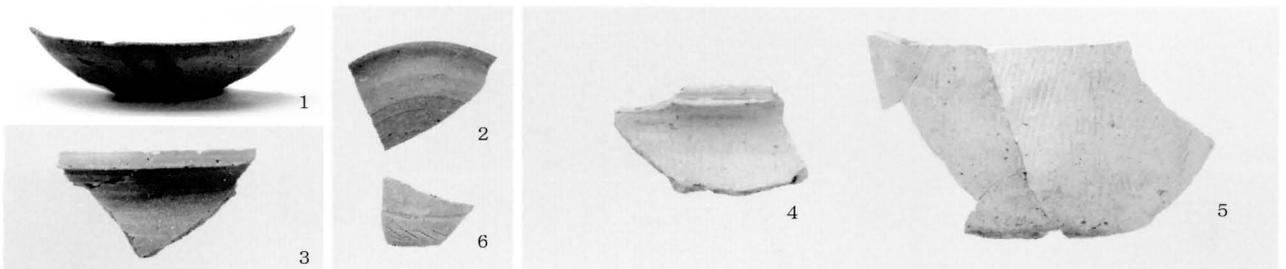
H 3 号住居址出土遺物



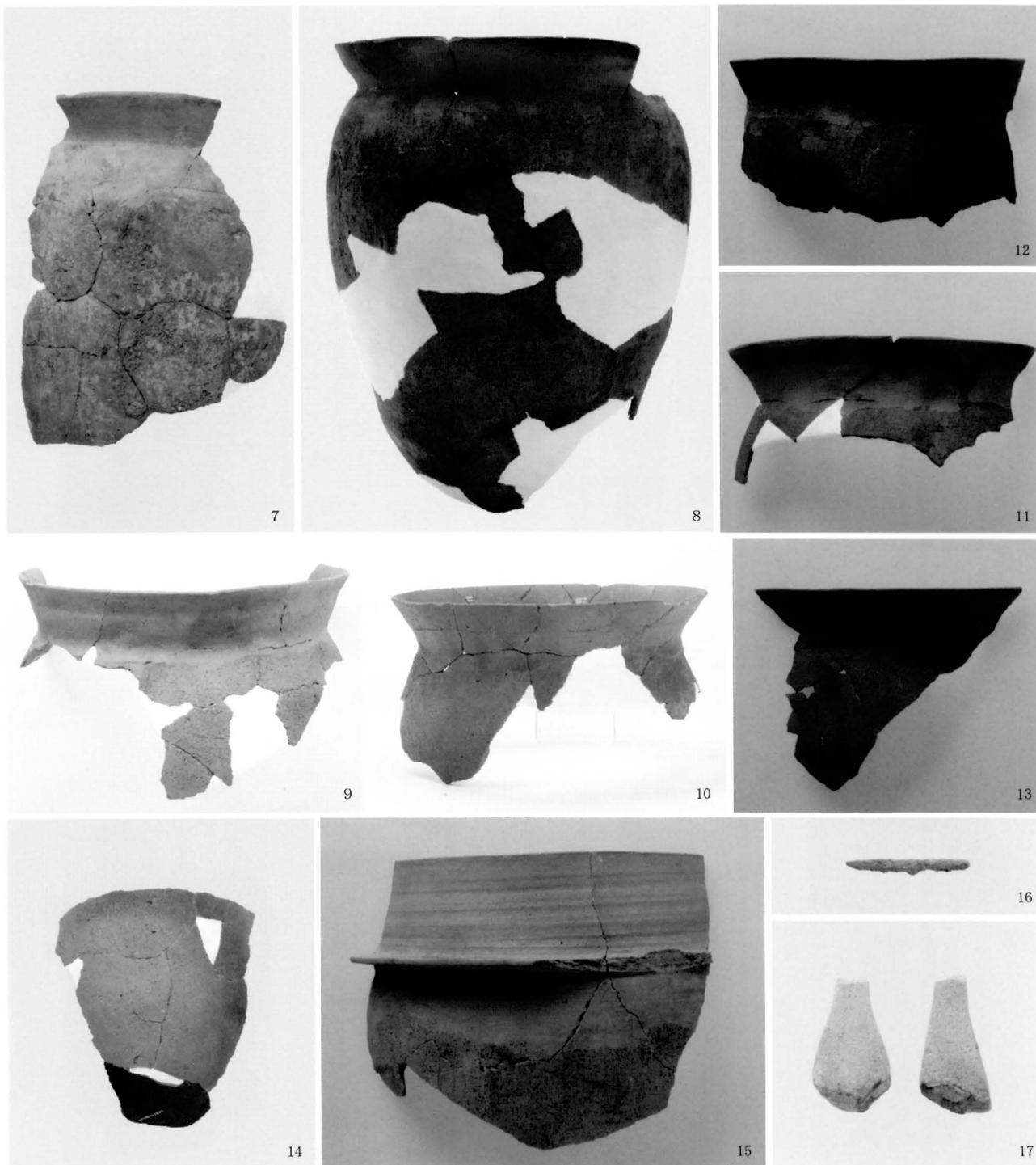
H 4 号住居址出土遺物



H 5 号住居址出土遺物



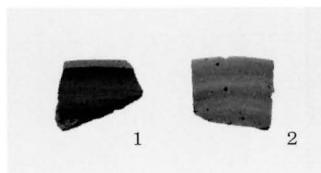
H 6 号住居址出土遺物



H6号住居址出土遺物



F5号掘立柱建物址
出土遺物



ピット出土遺物



カクラン出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ながとろいせきぐん かみひじりばたいせきさん							
書名	長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅲ							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第226集							
編著者名	久保 浩一郎							
編集機関	佐久市教育委員会 文化財課							
所在地	長野県佐久市志賀 5953 Tel:0267-68-7321 Fax:0267-68-7323							
発行年月日	平成26年(2014) 9月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査 期間	調査 面積 (㎡)	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
ながとろいせきぐん かみひじりばた いせきさん 長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅲ	さくしながとろ 佐久市長土呂 174-1他	20217	9	36° 17′ 15″	138° 28′ 32″	20130513 ～ 20130606	1,189	高齢者 複合施 設建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅲ	集落址	古墳時代 奈良時代	竪穴住居址 6軒 掘立柱建物址 14軒 土坑 3基 ピット 164基	縄文土器、土師器、 須恵器、石器、鉄製品				
要約	佐久市北部の田切り台地上、標高730m内外に展開する古墳時代～奈良時代の集落址であり、竪穴住居址6軒、掘立柱建物址14軒等が検出された。本調査区東側では古墳時代～平安時代の大集落遺跡である聖原遺跡等が調査されており、本調査区も聖原遺跡から続く集落の一部である。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第226集

長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅲ

平成26年(2014) 9月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

Tel:0267-68-7321

印刷所

キクハラインク株式会社